

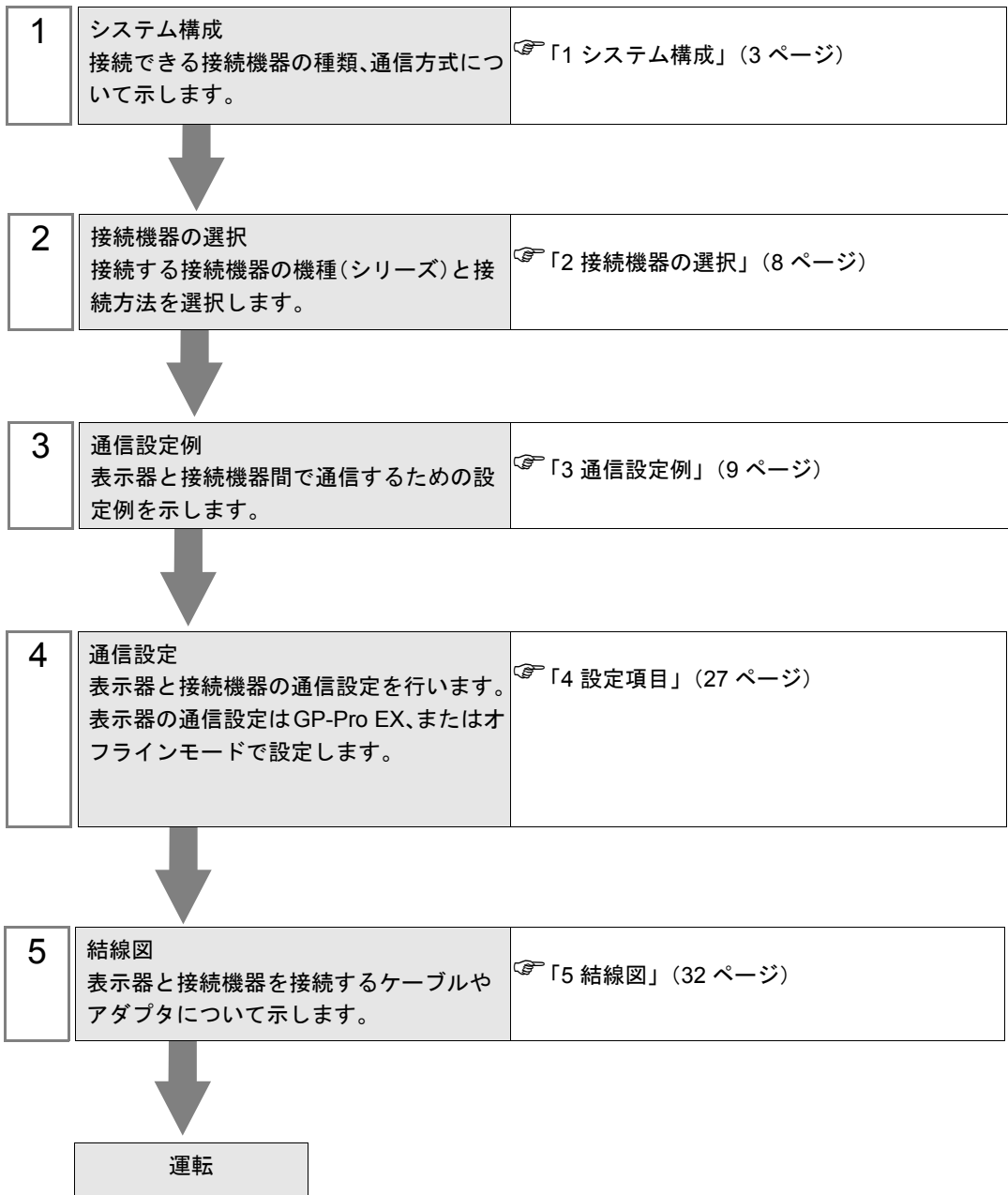
TOYOPUC CMP-LINK SIO ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択	8
3	通信設定例	9
4	設定項目	27
5	結線図	32
6	使用可能デバイス	101
7	デバイスコードとアドレスコード	109
8	エラーメッセージ	114

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

表示器と（株）ジェイテクト製接続機器を接続する場合のシステム構成を示します。

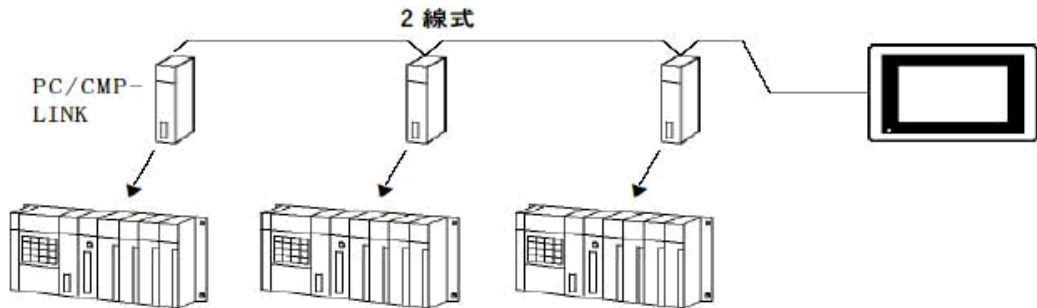
シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
TOYOPUC-PC2	PC2 L2	THU-2652（コンピュータリンクモジュール）	RS422 （2 線式）	設定例 1 （9 ページ）	結線図 1 （32 ページ）
	PC2J	THU-2755（PC/CMP-LINK）	RS422 （2 線式）	設定例 2 （11 ページ）	結線図 1 （32 ページ）
TOYOPUC-PC3J	PC3J	CPU ユニット上のリンク I/F（L2 端子台）	RS422 （2 線式）	設定例 3 （13 ページ）	結線図 2 （45 ページ）
		CPU ユニット上のリンク I/F（L1,L2 端子台）	RS422 （4 線式）	設定例 4 （15 ページ）	結線図 3 （58 ページ）
		THU-2755（PC/CMP-LINK）	RS422 （2 線式）	設定例 5 （17 ページ）	結線図 4 （67 ページ）
	PC3JD PC3JG	CPU ユニット上のリンク I/F（L1 端子台）	RS422 （2 線式）	設定例 3 （13 ページ）	結線図 1 （32 ページ）
		THU-2755（PC/CMP-LINK）※1	RS422 （2 線式）	設定例 5 （17 ページ）	結線図 1 （32 ページ）
TOYOPUC-PC3JT	PC3JT	CPU ユニット上の操作盤用通信コネクタ（L1）	RS422 （2 線式）	設定例 6 （19 ページ）	結線図 5 （80 ページ）
		CPU ユニット上のリンク通信コネクタ（L2）	RS422 （2 線式）	設定例 7 （21 ページ）	結線図 6 （88 ページ）
TOYOPUC-PC10G	PC10G	CPU ユニット上のリンク I/F（L3 端子台）	RS422 （2 線式）	設定例 8 （23 ページ）	結線図 1 （32 ページ）
		THU-2755（PC/CMP-LINK）※1※2	RS422 （2 線式）	設定例 9 （25 ページ）	結線図 1 （32 ページ）

※1 PC/CMP-LINK（THU-2755）を PC3J のコマンドで使用する場合には、Ver.5.00 以上のリンクユニットが必要です。また、リンクユニットには PC2J もしくは PC3J の切り替えスイッチ（SW）等の設定はありません。Ver.5.00 未満のリンクユニットに対して PC3J のコマンドを送るとエラーとなります。

※2 GM、GC、GY、EB デバイスに接続する場合は、Ver.6 以上の PC/CMP-LINK（THU-2755）が必要です。

■ 接続構成

(株) ジェイテクト製接続機器「PC2J」(n 台) と、表示器 (1 台) を、上位リンクプロトコルを利用して 1:n の通信を実現する場合のシステム構成を示します。



- システムの中で使用する表示器は、必ず 1 台にしてください。
- リンク上には表示器 1 台に対し、接続機器は最大 16 台接続できます。

MEMO

- PC3JT の L1 ポートは 1:1 接続のみサポートします。L2 ポートには表示器 1 台に対し、接続機器は最大 16 台接続できます。

■ IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

シリーズ	使用可能ポート		
	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)
PS-2000B	COM1※ ¹ 、COM2、COM3※ ¹ 、COM4	-	-
PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD	COM1、COM2※ ¹ ※ ²	COM2※ ¹ ※ ²	COM2※ ¹ ※ ²
PS-3650A(T41 機種)、PS-3651A(T41 機種)	COM1※ ¹	-	-
PS-3650A(T42 機種)、PS-3651A(T42 機種)	COM1※ ¹ ※ ² 、COM2	COM1※ ¹ ※ ²	COM1※ ¹ ※ ²
PS-3700A (Pentium®4-M)、PS-3710A	COM1※ ¹ 、COM2※ ¹ 、COM3※ ² 、COM4	COM3※ ²	COM3※ ²
PS-3711A	COM1※ ¹ 、COM2※ ²	COM2※ ²	COM2※ ²
PS4000※ ³	COM1、COM2	-	-
PL3000	COM1※ ¹ ※ ² 、COM2※ ¹ 、COM3、COM4	COM1※ ¹ ※ ²	COM1※ ¹ ※ ²
PE-4000B Atom N270	COM1、COM2	-	-
PE-4000B Atom N2600	COM1、COM2	COM3※ ⁴ 、COM4※ ⁴ 、COM5※ ⁴ 、COM6※ ⁴	COM3※ ⁴ 、COM4※ ⁴ 、COM5※ ⁴ 、COM6※ ⁴

※¹ RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

※² 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

※³ 拡張スロットに搭載した COM ポートと接続機器を通信させる場合、通信方式は RS-232C のみサポートします。ただし、COM ポートの仕様上、ER(DTR/CTS) 制御はできません。接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、ピン番号 1、4、6、9 には何も接続しないでください。ピン配列は IPC のマニュアルを参照してください。

※⁴ 通信方式を BIOS で設定する必要があります。BIOS の詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

ディップスイッチの設定：RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF※ ¹	予約（常時 OFF）
2	OFF	通信方式：RS-232C
3	OFF	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

※¹ PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする必要があります。

ディップスイッチの設定：RS-422/485（4 線式）

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約（常時 OFF）
2	ON	通信方式：RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

ディップスイッチの設定 : RS-422/485 (2 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約 (常時 OFF)
2	ON	通信方式 : RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
7	ON	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡 : する
8	ON	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡 : する
9	ON	RS(RTS) 自動制御モード : 有効
10	ON	

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1～4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「(株)ジェイテクト」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「TOYOPUC CMP-LINK SIO」を選択します。 「TOYOPUC CMP-LINK SIO」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」(3 ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「システム設定 [本体設定] - [システムエリア設定] の設定ガイド」 参照：保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

TOYOPUC シリーズを使用する場合は GP-Pro EX およびラダーソフトで以下のように設定します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

The screenshot shows the '接続機器1' (Connection Device 1) settings window. The '概要' (Summary) section shows the manufacturer as '(株)ジェテクト', the series as 'TOYOPUC CMP-LINK SIO', and the port as 'COM1'. The '文字列データモード' (String Data Mode) is set to '1'. The '通信設定' (Communication Settings) section includes options for communication method (RS232C, RS422/485 2-wire, RS422/485 4-wire), baud rate (19200), data length (8), parity (Even), stop bits (1), flow control (None), time-out (3 sec), retry (2), and transmit wait (0 ms). There is a note about RS232C pin settings (RI/VCC) and a '初期設定' (Initial Settings) button. The '機器別設定' (Device-specific Settings) section shows '接続可能台数' (Maximum number of connectable units) as 16 and a '機器を追加' (Add device) button. At the bottom, there is a table with columns 'No.', '機器名' (Device Name), and '設定' (Settings). The first entry is '1' with device name 'PLC1' and settings 'シリーズ=PC2 シリーズ,号機No.=0,書き込みモード設定='.

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)ジェテクト シリーズ TOYOPUC CMP-LINK SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☒ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☒ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☒ なし ☐ ER(DTR/GTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

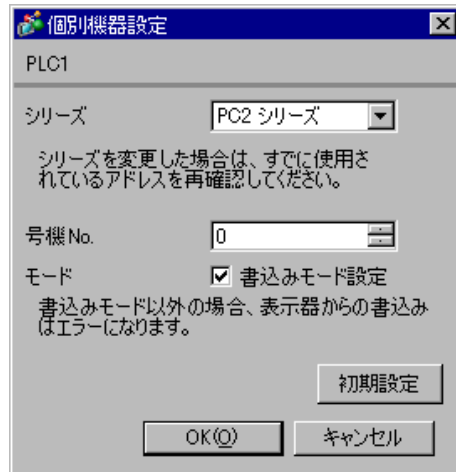
No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=PC2 シリーズ,号機No.=0,書き込みモード設定=

[間接機器追加](#)

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



■ 接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。

設定の詳細については接続機器のマニュアルをご参照ください。

設定項目	設定
伝送速度	19200bps
データビット	8bit
ストップビット	1bit
パリティビット	偶数
カード種別	CMP リンク
SET5	ウォッチドックタイマを ON
局番	0

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

■ 接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。

設定の詳細については接続機器のマニュアルをご参照ください。

設定項目	設定
伝送速度	19200bps
データビット	8bit
ストップビット	1bit
パリティビット	偶数
内部スイッチ	SW4-1 OFF SW4-2 ON
局番	1

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

■ 接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。

設定の詳細については接続機器のマニュアルをご参照ください。

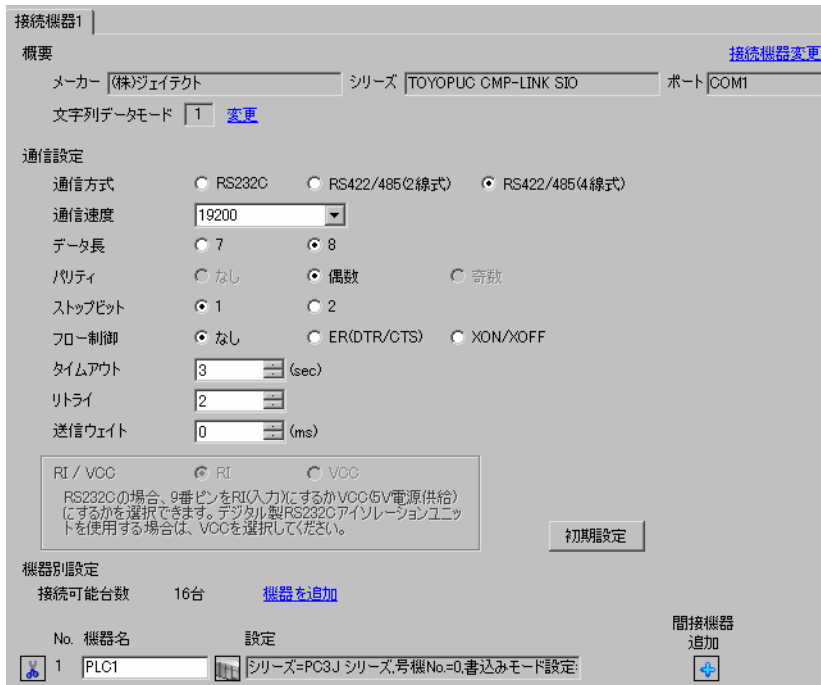
設定項目	設定
伝送速度	19200bps
データビット	8bit
ストップビット	1bit
パリティビット	偶数
RS422 通信ポート	2 線式
STATION No.	0

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。



接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)ジェテクト シリーズ TOYOPUC CMP-LINK SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☐ RS422/485(2線式) ☒ RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☒ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☒ なし ☐ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cインソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

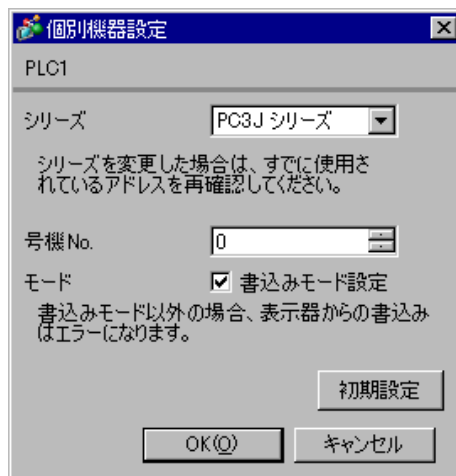
接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=PC3J シリーズ,号機No.=0,書き込みモード設定:	+

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定

PLC1

シリーズ PC3J シリーズ

シリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

号機No. 0

モード ☒ 書き込みモード設定

書き込みモード以外の場合、表示器からの書き込みはエラーになります。

[初期設定](#)

[OK\(O\)](#) [キャンセル](#)

■ 接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。

設定の詳細については接続機器のマニュアルをご参照ください。

設定項目	設定
伝送速度	19200bps
データビット	8bit
ストップビット	1bit
パリティビット	偶数
RS422 通信ポート	4 線式
STATION No.	0

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

■ 接続機器の設定

コンピュータリンクモジュールを下記のように設定します。

設定の詳細については接続機器のマニュアルをご参照ください。

設定項目	設定
伝送速度	19200bps
データビット	8bit
ストップビット	1bit
パリティビット	偶数
RS422 通信ポート※1	2 線式
STATION No.	0

※1 PC/CMP-LINK(THU-2755)を使用する場合には、2 線式のみ使用可能です。また、PC3J用のコマンドを使用する場合には、Ver.5.00 以上のリンクユニットが必要です。

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)ジェイテクト シリーズ TOYOPUC CMP-LINK SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☒ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度 115200

データ長 ☒ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☒ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☒ なし ☐ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=PC3JT シリーズ,号機No.=0,書き込みモード設定

[間接機器追加](#)

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

シリーズ PC3JT シリーズ

シリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

号機 No. 0

モード ☒ 書き込みモード設定

書き込みモード以外の場合、表示器からの書き込みはエラーになります。

[初期設定](#)

[OK\(O\)](#) [キャンセル](#)

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定は CPU ユニット上のディップスイッチで行います。

詳細は接続機器のマニュアルをご参照ください。

- ディップスイッチ (SW5)

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	ON	RS422
2	ON	CMP (コンピュータリンク)
3	OFF	常時 OFF
4	ON	115.2Kbps
5	OFF	常時 OFF
6	OFF	出力 OFF (D-LINK 用)
7	OFF	RUN 継続 (D-LINK 用)
8	OFF	スキャン非同期 (D-LINK 用)

MEMO

- 以下の項目は固定です。

設定項目	設定値
データ長	8bit
ストップ	1bit
パリティ	偶数
局番	0

3.7 設定例 7

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

PC3JT で L2 ポートを使用する場合は [シリーズ] から「PC3J シリーズ」を選択してください。

■ 接続機器の設定

接続機器を下記のように設定します。

設定の詳細については接続機器のマニュアルをご参照ください。

設定項目	設定
STATION No.	0
データ長	8bit
ストップビット長	1bit
通信速度	19200bps
2 線式 /4 線式	2 線式

3.8 設定例 8

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

接続機器1

概要

メーカー (株)ジェイテクト シリーズ TOYOPUC CMP-LINK SIO ポート COM1

文字列データモード 1 変更

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☒ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☒ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☒ なし ☐ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台 機器を追加

No	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=PC10G シリーズ,号機No=0,書き込みモード設定

間接機器 追加

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

シリーズ PC10G シリーズ

シリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

号機No. 0

モード ☒ 書き込みモード設定

書き込みモード以外の場合、表示器からの書き込みはエラーになります。

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（PCWin）で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動し、プロジェクトを作成します。
- 2 プロジェクトツリーの [CPU 動作モード] で CPU 動作モードを [PC10 モード] に設定します。
- 3 プロジェクトツリーの [リンクパラメータ] をダブルクリックします。
- 4 [リンクパラメータの設定] ダイアログボックスでリンクモジュールを設定するリンク No. を選択し、[リンク設定] をクリックします。
- 5 以下のように設定し、[OK] をクリックします。

設定項目	設定値
ラック No.	内蔵
スロット No.	標準
リンクモジュール名	コンピュータリンク

- 6 設定したリンクモジュールを選択した状態で [詳細設定] をクリックし、以下のように設定します。

設定項目	設定値
局番	00
データ長	8 ビット
ストップビット長	1 ビット
通信速度	19200bps
2 線式 / 4 線式	2 線式

- 7 通信設定を接続機器に書込みます。書込み完了後、接続機器を再起動します。

3.9 設定例 9

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

接続機器1

概要

メーカー (株)ジェイテクト シリーズ TOYOPUC CMP-LINK SIO ポート COM1

文字列データモード 1 変更

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☒ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☒ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☒ なし ☐ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台 機器を追加

No	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=PC10G シリーズ,号機No=0,書き込みモード設定

間接機器追加

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

シリーズ PC10G シリーズ

シリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

号機No. 0

モード ☒ 書き込みモード設定

書き込みモード以外の場合、表示器からの書き込みはエラーになります。

初期設定

OK(O) キャンセル

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はリンク I/F 前面のロータリスイッチおよびディップスイッチで設定します。
詳細は接続機器のマニュアルをご参照ください。

- ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定値	設定内容
SW1	0	号機番号 (十の位)
SW2	0	号機番号 (一の位)
SW3	1	19200bps

- ディップスイッチ

ディップスイッチ	設定値	設定内容
SW4-4	OFF	データ長 : 8 ビット
SW4-3	ON	ストップビット長 : 1 ビット
SW4-2	ON	コンピュータリンク
SW4-1	OFF	2 線式 (固定)

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(9 ページ)

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

接続機器1

概要

メーカー シリーズ ポート [接続機器変更](#)

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 ☐ RS232C ☒ RS422/485(2線式) ☐ RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 ☐ 7 ☒ 8

パリティ ☐ なし ☒ 偶数 ☐ 奇数

ストップビット ☒ 1 ☐ 2

フロー制御 ☒ なし ☐ ER(DTR/CTS) ☐ XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC ☒ RI ☐ VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期値設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=PC3J シリーズNo.=0,書込みモード設定

間接機器 [追加](#)

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ～ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ～ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ～ 255」で入力します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

MEMO

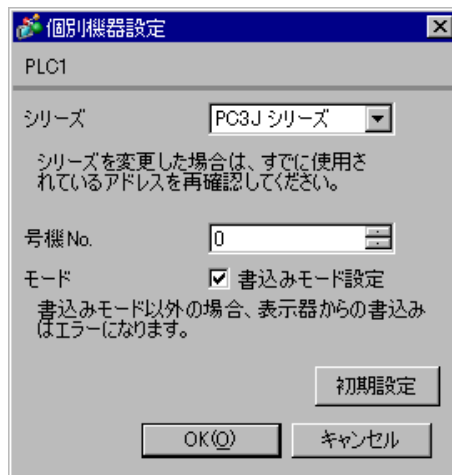
- 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい（間接機器指定）」

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



設定項目	設定内容
シリーズ	ドライバのシリーズ名に「PC3J シリーズ」「PC2 シリーズ」のいずれかを選択します。
号機 No.	号機番号を「0 ～ 31（8 進数）」で入力します。
モード	GP-Pro EX からの書き込み要求があった場合に接続機器を書き込みモードへと変更する場合に「ON」をチェックします。

重 要

- 接続機器が運転モードの場合、表示器からの書込みを受付けません。「動作モード」を有効にすると、起動時に接続機器をモニタモードへと変更し、書き込みできるようにします。

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO

- オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照： 保守 / トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

- オフラインモードは使用する表示器によって 1 画面に表示できる設定項目数が異なります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
TOYOPUC CMP-LINK SIO [COM1] Page 1/1				
通信方式	RS422/485(2線式)			
通信速度	19200			
データ長	☐ 7 ☒ 8			
パリティ	偶数			
ストップビット	☒ 1 ☐ 2			
フロー制御	なし			
タイムアウト(s)	3			
リトライ	2			
送信ウェイト(ms)	0			
終了			戻る	2005/09/02 13:23:55

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。 重 要 通信設定を行う場合、[通信方式] は表示器のシリアルインターフェイスの仕様を確認し、正しく設定してください。シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ～ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ～ 255」で入力します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ～ 255」で入力します。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
TOYOPUC CMP-LINK SIO [COM1] Page 1/1				
接続機器名		PLC1		
シリーズ	PC3Jシリーズ			
号機No.	0 (Oct)			
書き込みモード	☒ 有効 ☐ 無効			
終了		戻る		2005/09/02 13:23:57

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズ名が表示されます。
号機 No.	号機番号を「0 ～ 31 (8進数)」で入力します。
書き込みコマンド	GP-Pro EX からの書き込み要求があった場合に接続機器を書き込みモードへと変更する場合に「有効」をチェックします。

■ オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
TOYOPUC CMP-LINK SIO [COM1] Page 1/1				
設定する項目はありません。				
	終了		戻る	2005/09/02 13:23:58

MEMO

- GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、LT-4*01TM および LT-Rear Module の場合、オフラインモードに [オプション] の設定はありません。

5 結線図

以下に示す結線図と（株）ジェイテクトが推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- 接続ケーブルは、2 重シールドのケーブルをご使用ください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図 1

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000※ ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST※ ² (COM2) LT3000 (COM1)	1A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	1B	自作ケーブル	
GP3000※ ³ (COM2)	1C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	1D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC※ ⁴	1E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	1F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	1G	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
GP-4107 (COM1) GP-4*03T※ ⁵ (COM2) GP-4203T (COM1)	1H	自作ケーブル	

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP4000※ ⁶ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	1I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1※ ⁷ + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	1B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	1J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	ケーブル長は 200m 以内に してください。
PE-4000B※ ⁸	1K	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。

※ 1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※ 2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※ 3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※ 4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B を除く)

☞ ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

※ 5 GP-4203T を除く

※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
場合、1A の結線図を参照してください。

※ 8 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

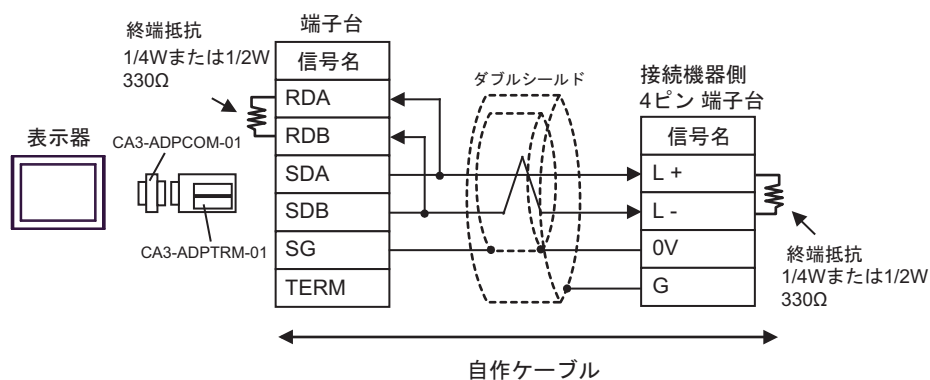
☞ ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

MEMO

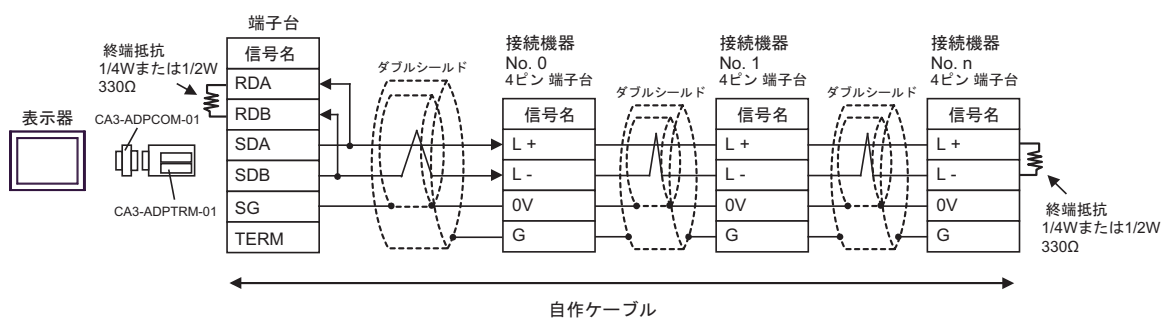
- 接続ケーブルとして中国電線工業 (株) 製 2 重シールド 0-VCTF-SS 2C*0.75mm2、
中国電線工業 (株) 製 2 重シールド UL2464-DSS 2C × 20AWG、倉茂電工 (株)
UL2464-2SB 2 × 20AWG を推奨します。
- 接続機器本体の FG 端子は、D 種接地を行ってください。
- シールド線への FG の接続は、設置環境によって接続機器側、表示器側のどちらか
を選択してください。
- 通信ケーブルを結線する場合は、必ず SG を接続してください。
- RS-422 接続の場合、ケーブル長は (株) ジェイテクトのマニュアルを参照してくだ
さい。

1A)

- 1 : 1 接続の場合

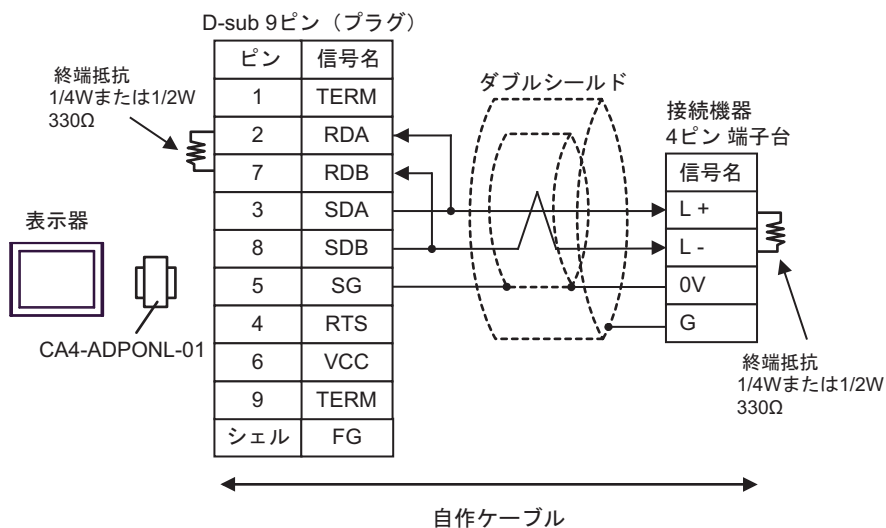


- 1 : n 接続の場合

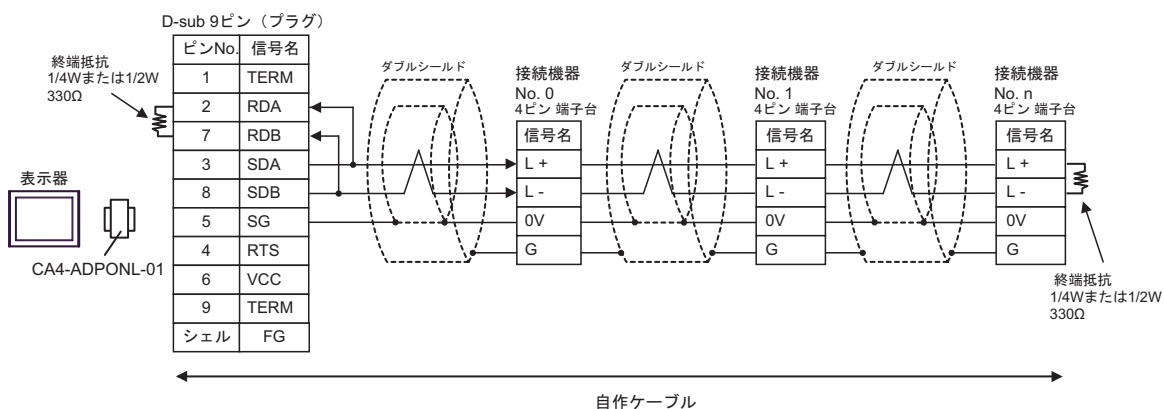


1D)

- 1 : 1 接続の場合

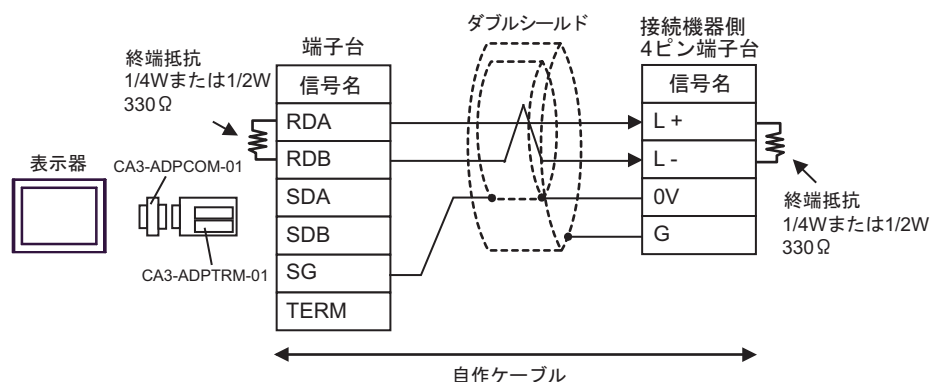


- 1 : n 接続の場合

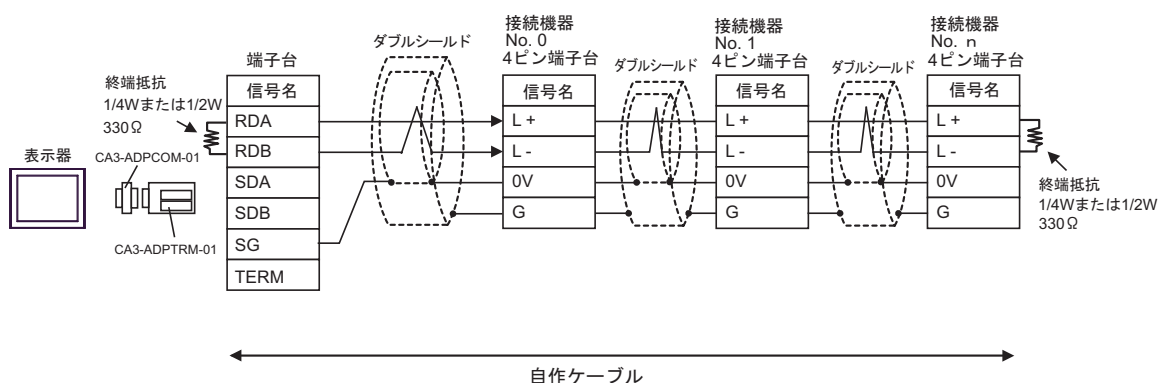


1E)

- 1 : 1 接続の場合

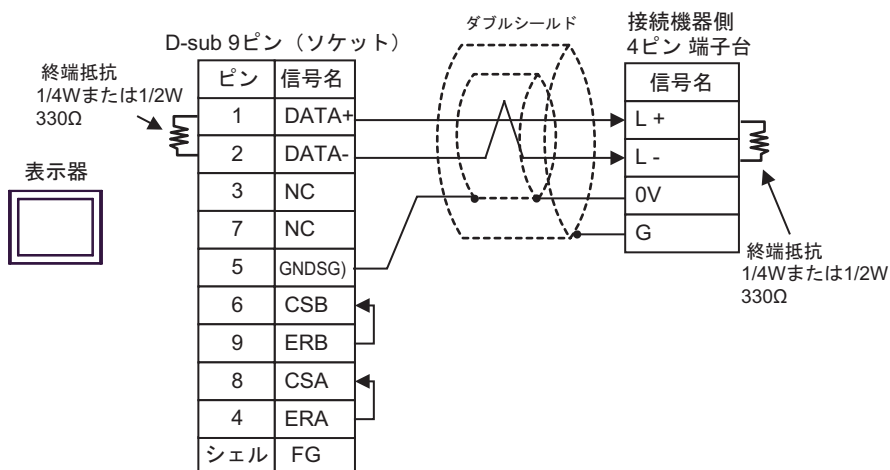


- 1 : n 接続の場合

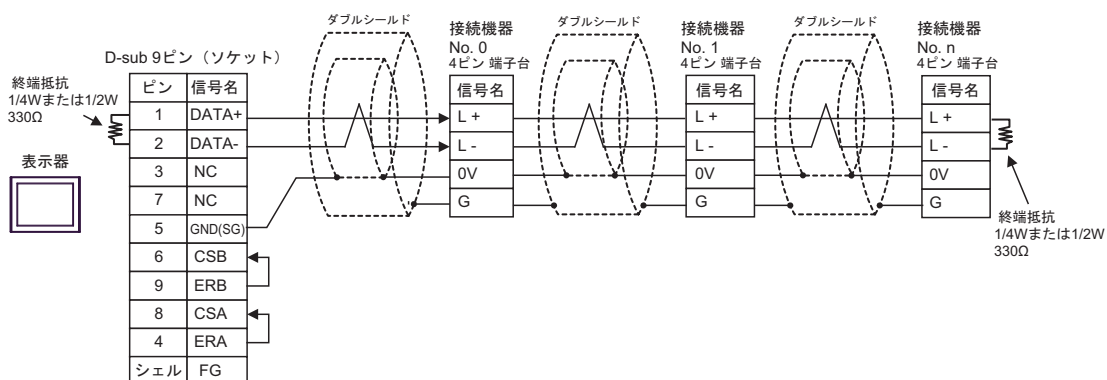


1F)

- 1 : 1 接続の場合

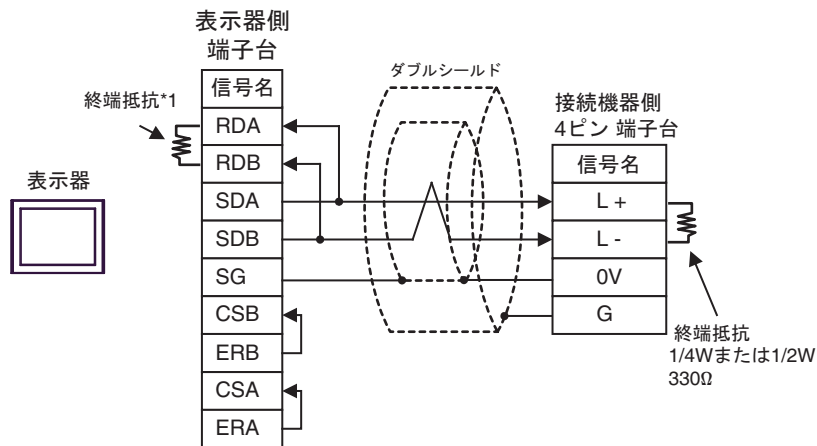


- 1 : n 接続の場合

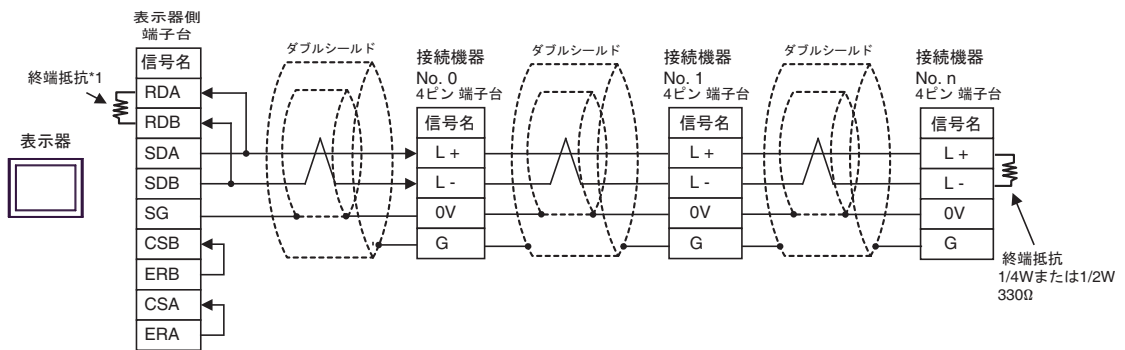


1G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

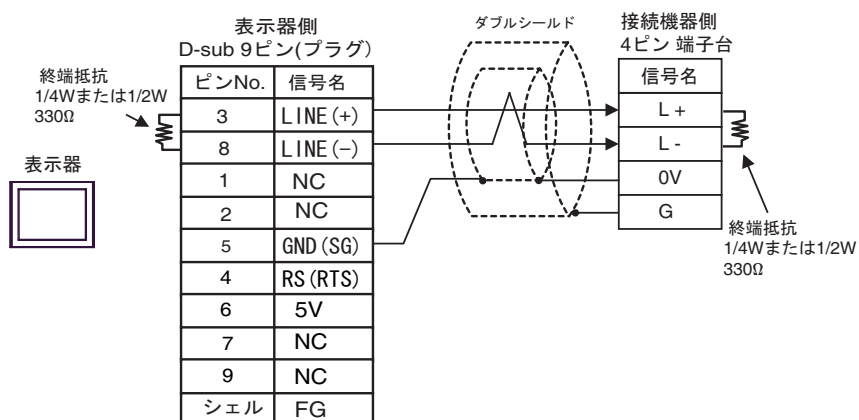


*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

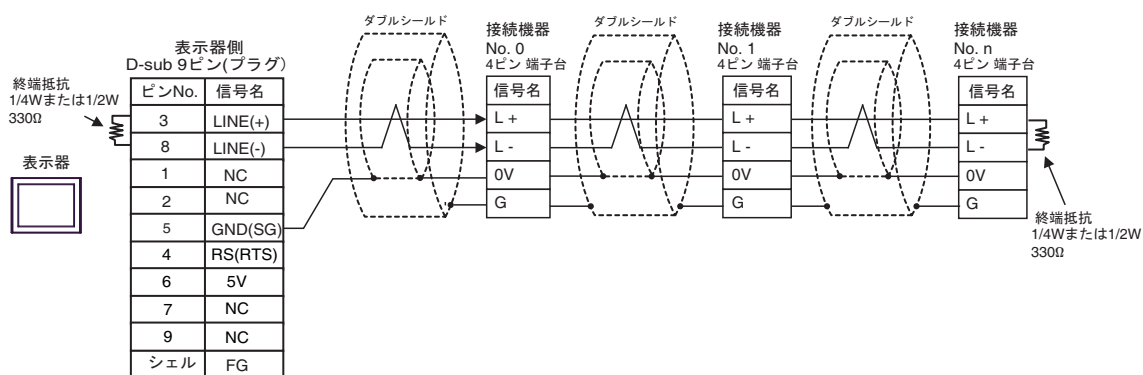
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

1H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

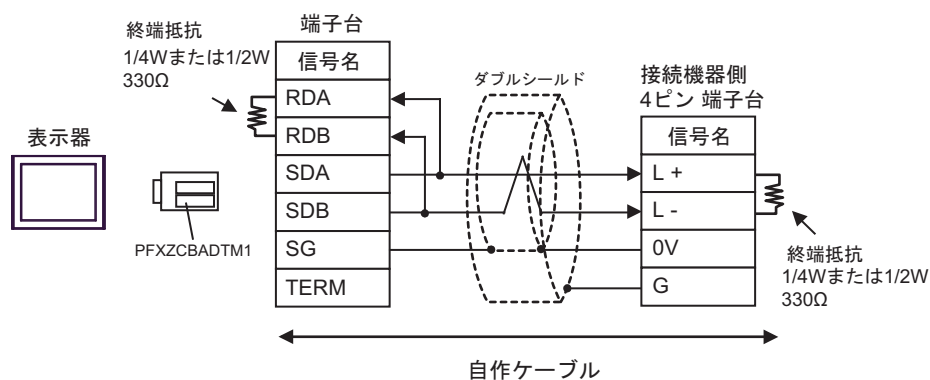
- 表示器の 5V 出力 (6 番ピン) は Siemens 製 PROFIBUS コネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

MEMO

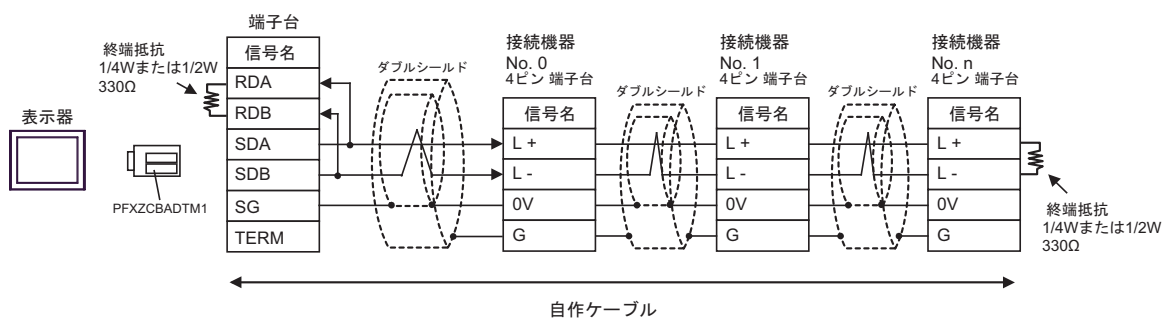
- GP-4107 の COM では SG と FG が絶縁されています。

1l)

- 1 : 1 接続の場合

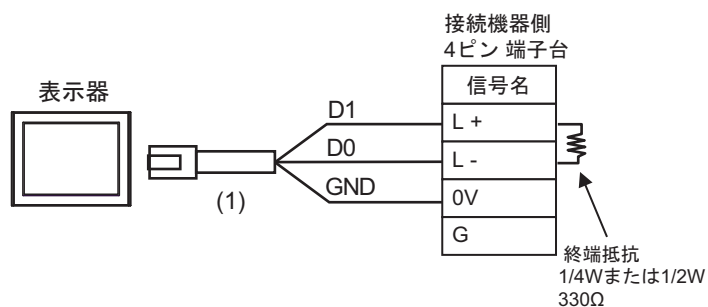


- 1 : n 接続の場合

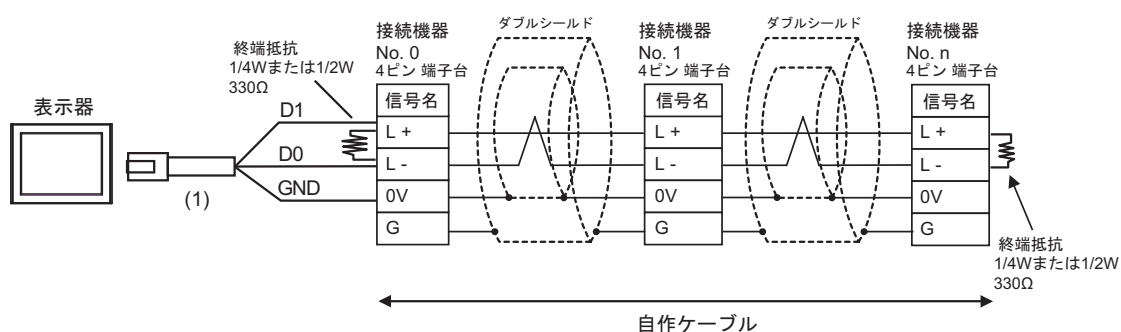


1J)

- 1 : 1 接続の場合



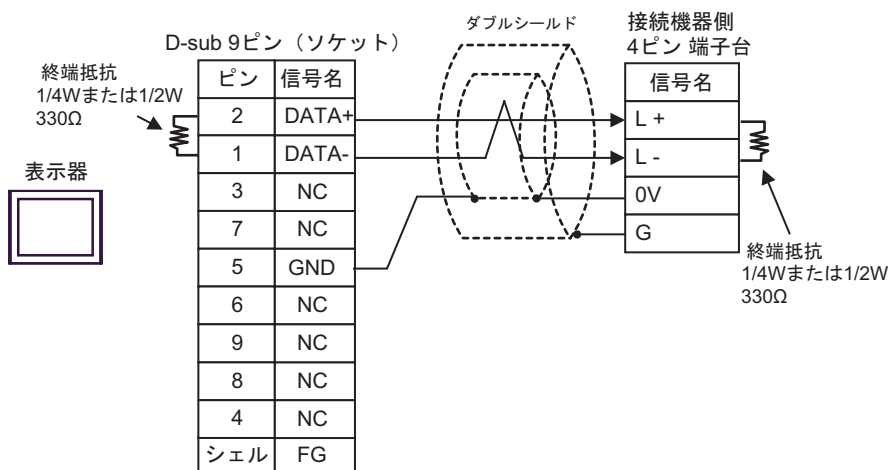
- 1 : n 接続の場合



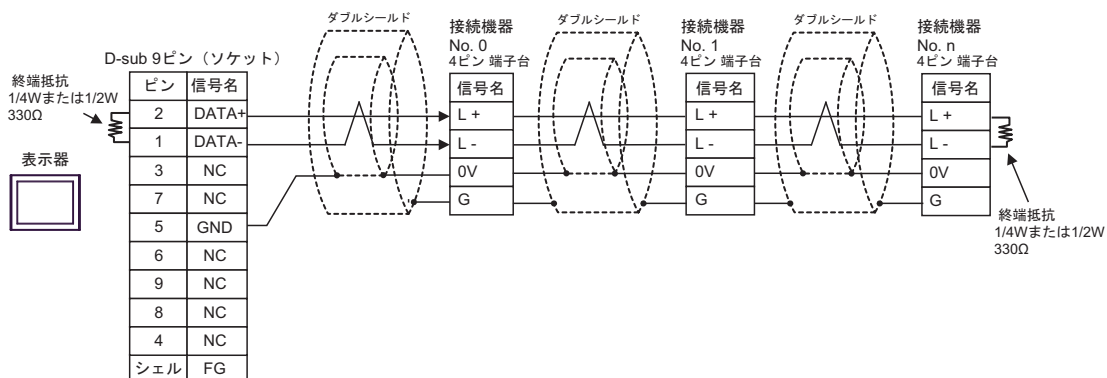
番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	

1K)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000※ ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST※ ² (COM2) LT3000 (COM1)	2A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にして ください。
	2B	自作ケーブル	
GP3000※ ³ (COM2)	2C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にして ください。
	2D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC※ ⁴	2E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にして ください。
	2F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	2G	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にして ください。
GP-4107 (COM1) GP-4*03T※ ⁵ (COM2) GP-4203T (COM1)	2H	自作ケーブル	
GP4000※ ⁶ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	2I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1※ ⁷ + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にして ください。
	2B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	2J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	ケーブル長は 200m 以内にして ください。
PE-4000B※ ⁸	2K	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にして ください。

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

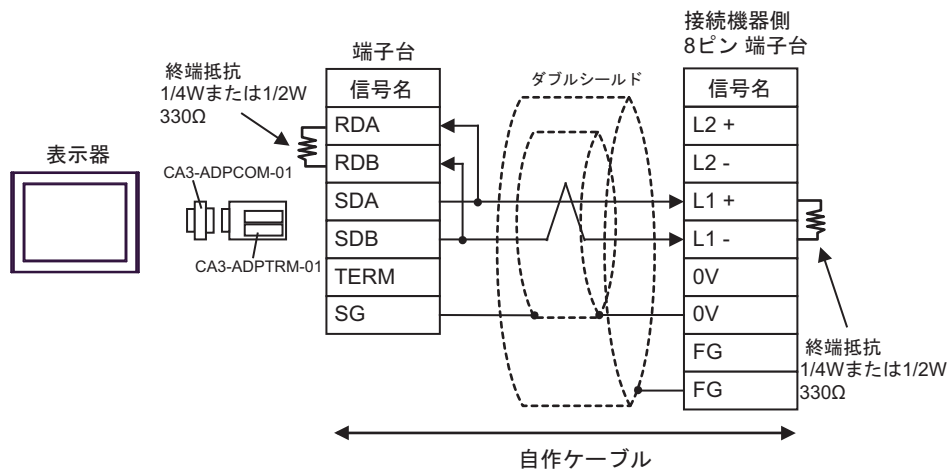
- ※ 2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種
- ※ 3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B を除く)
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
 場合、2A の結線図を参照してください。
- ※ 8 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

MEMO

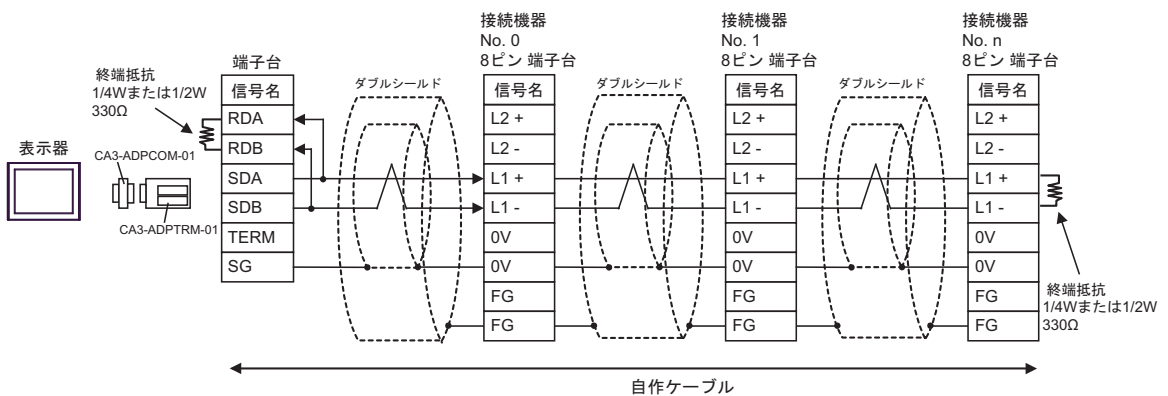
- ・ 接続ケーブルとして中国電線工業 (株) 製 2 重シールド 0-VCTF-SS 2C*0.75mm²、
 中国電線工業 (株) 製 2 重シールド UL2464-DSS 2C × 20AWG、倉茂電工 (株)
 UL2464-2SB 2 × 20AWG を推奨します。
 - ・ 接続機器本体の FG 端子は、D 種接地を行ってください。
 - ・ シールド線への FG の接続は、設置環境によって接続機器側、表示器側のどちらか
 を選択してください。
 - ・ 通信ケーブルを結線する場合は、必ず SG を接続してください。
 - ・ RS-422 接続の場合、ケーブル長は (株) ジェイテクトのマニュアルを参照してくだ
 さい。
-

2A)

- 1 : 1 接続の場合

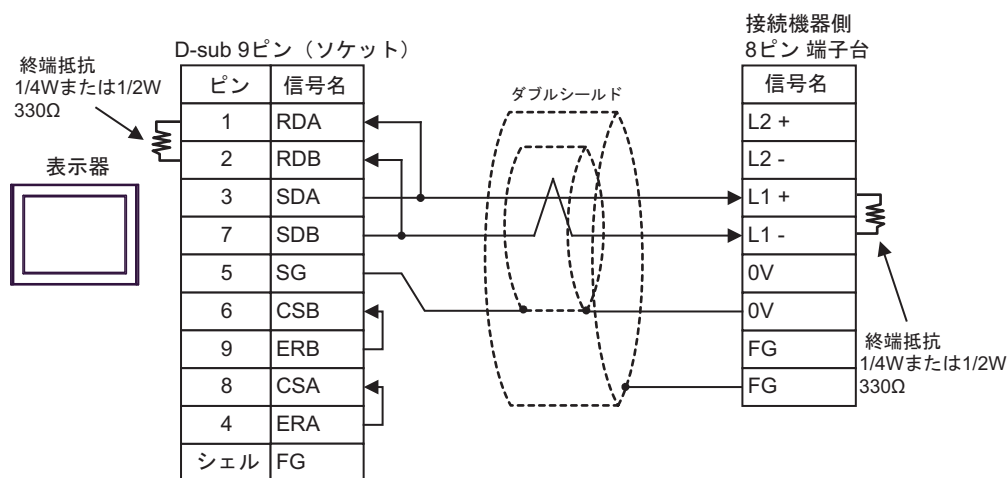


- 1 : n 接続の場合

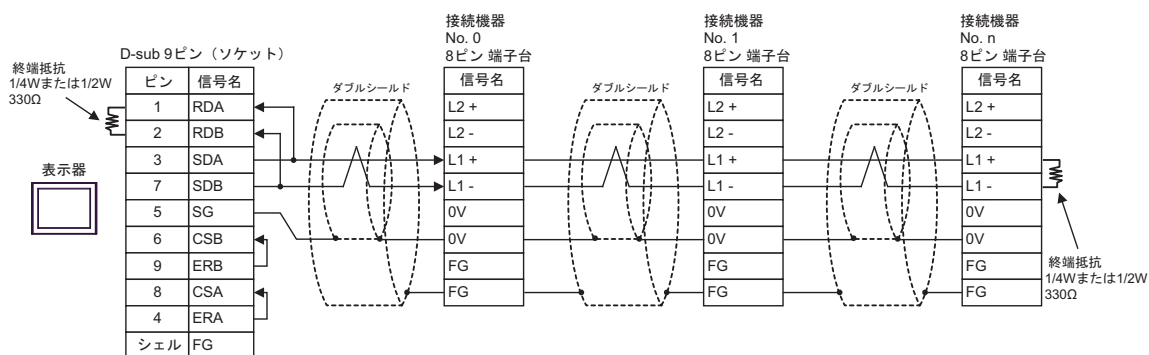


2B)

- 1 : 1 接続の場合

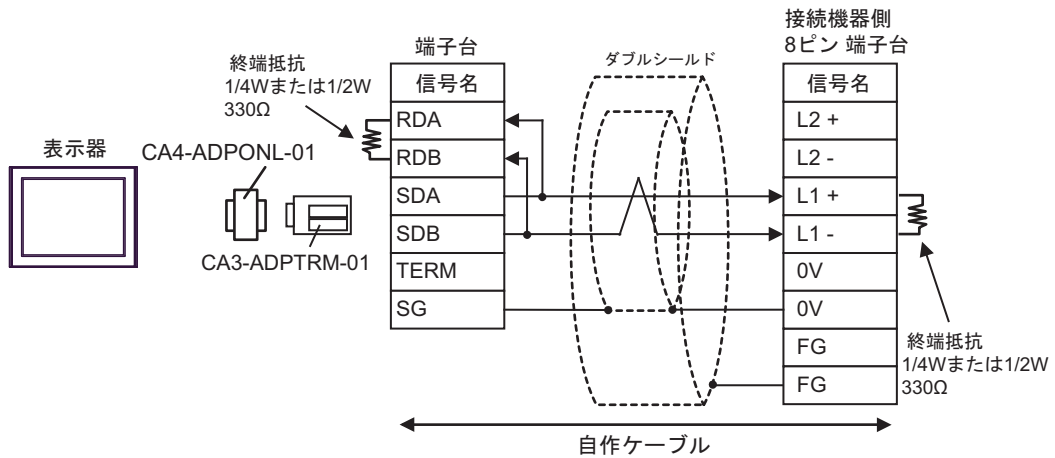


- 1 : n 接続の場合

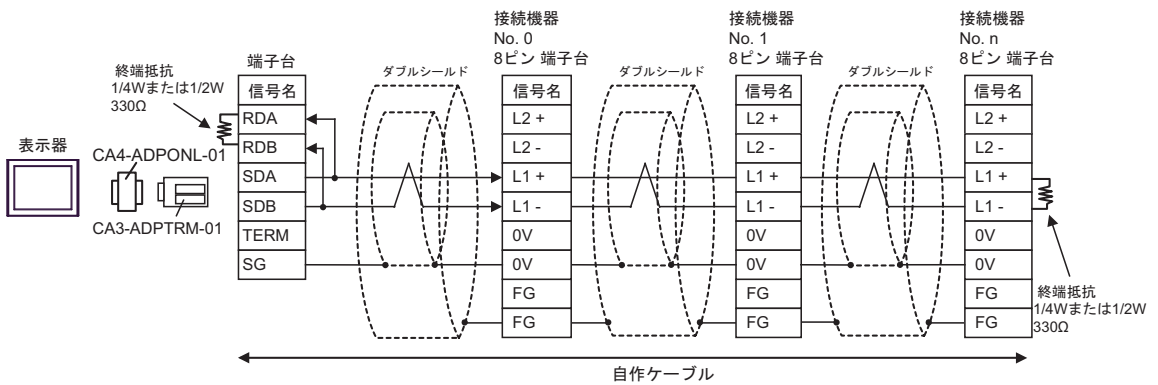


2C)

- 1 : 1 接続の場合

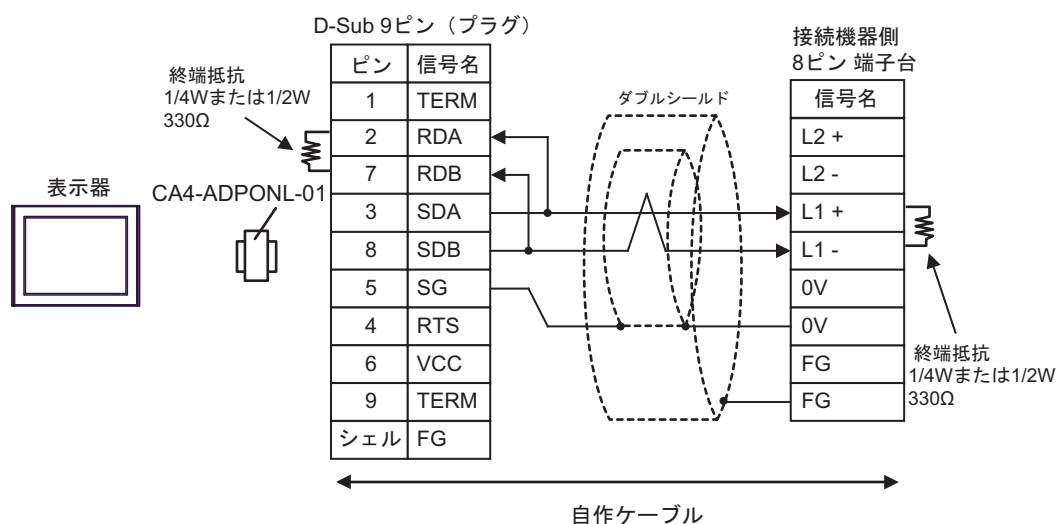


- 1 : n 接続の場合

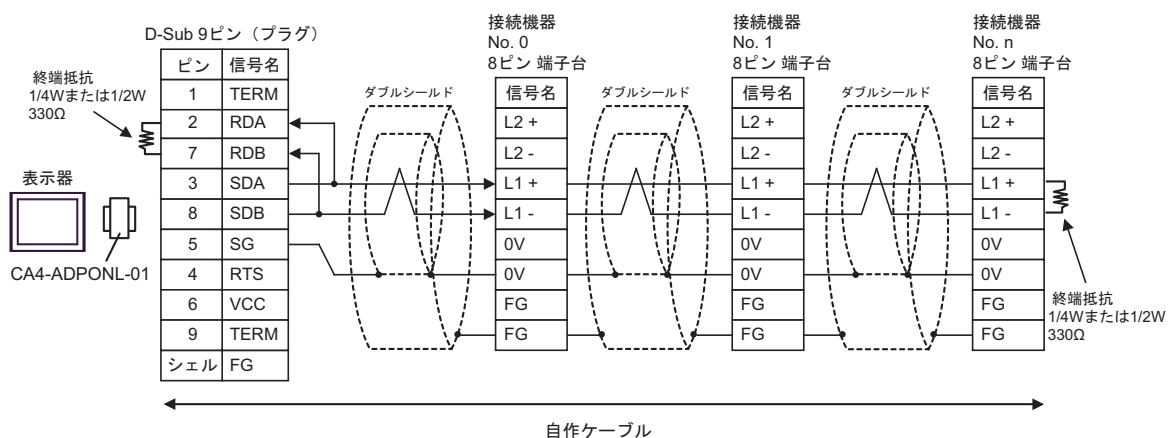


2D)

- 1 : 1 接続の場合

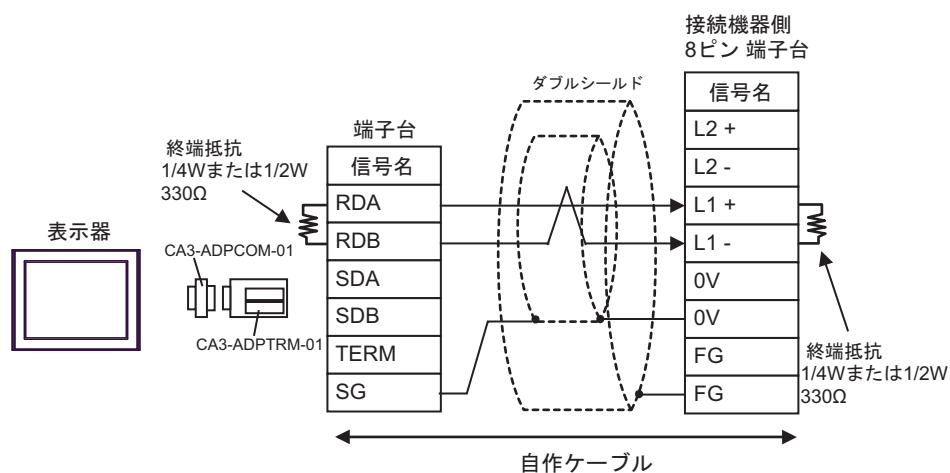


- 1 : n 接続の場合

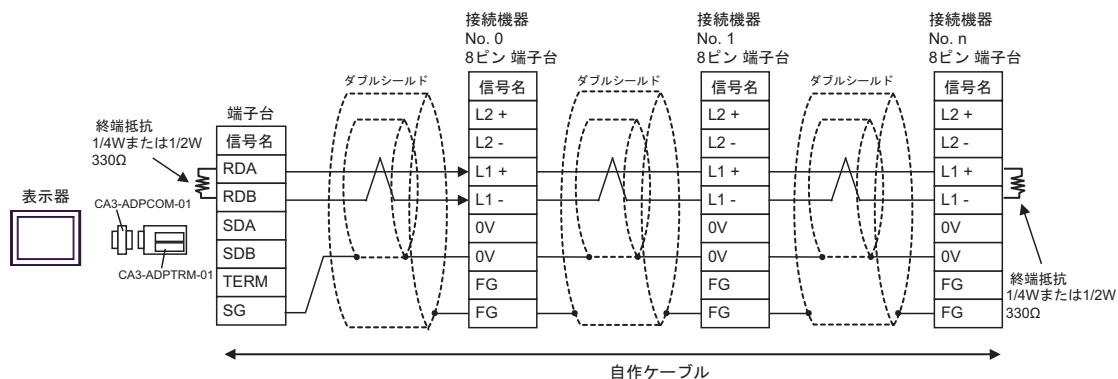


2E)

- 1 : 1 接続の場合

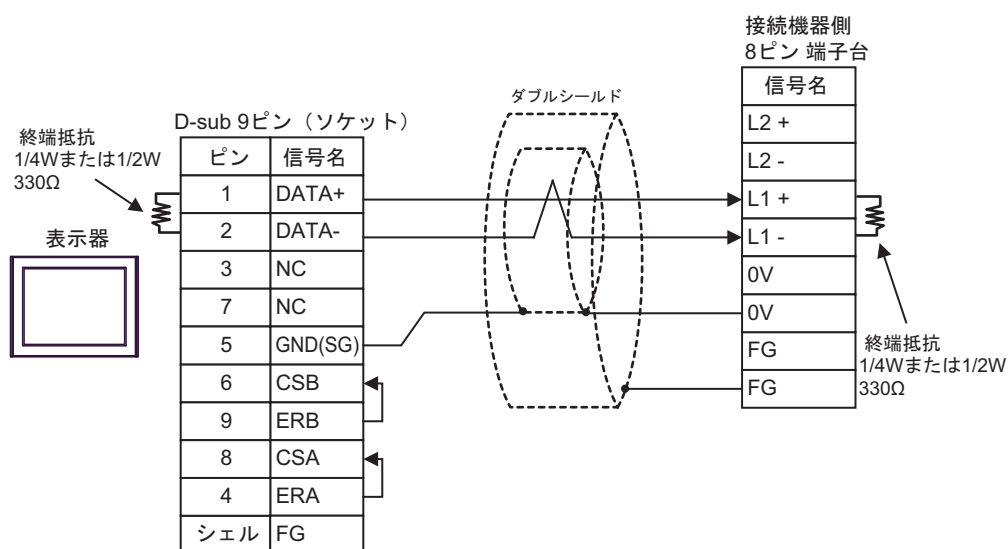


- 1 : n 接続の場合

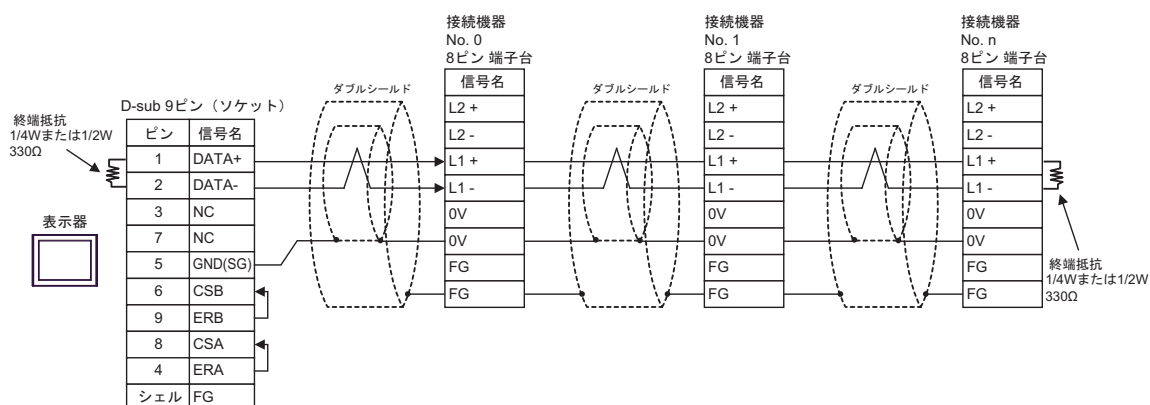


2F)

- 1 : 1 接続の場合

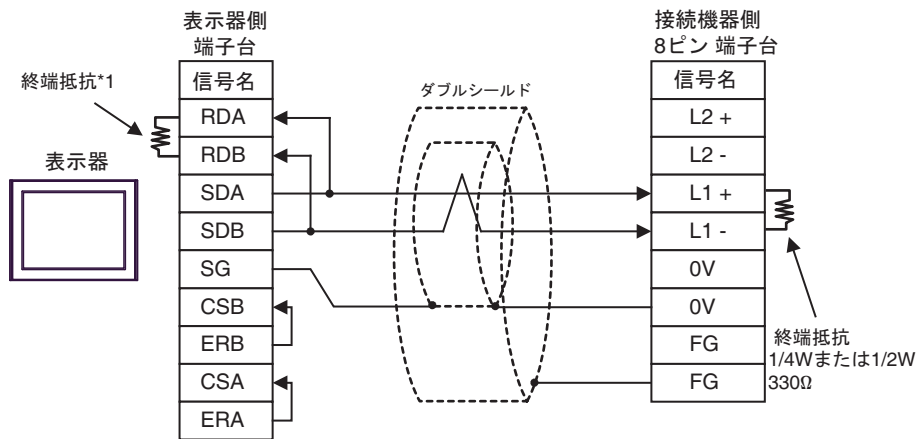


- 1 : n 接続の場合

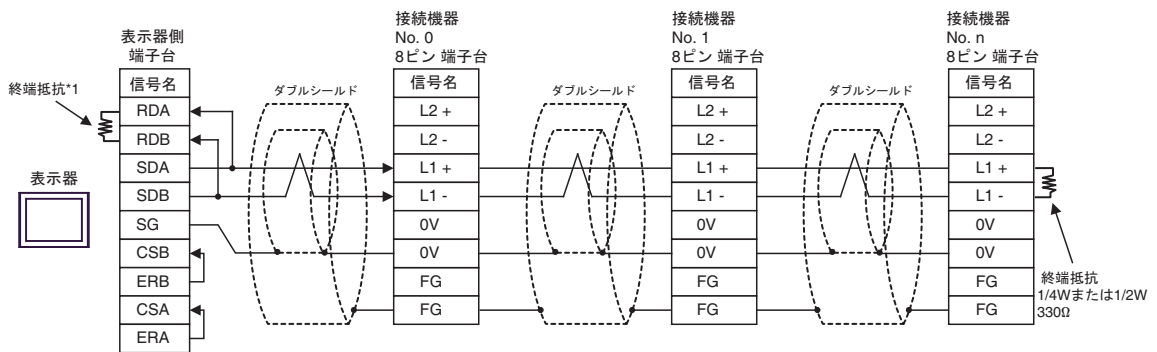


2G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

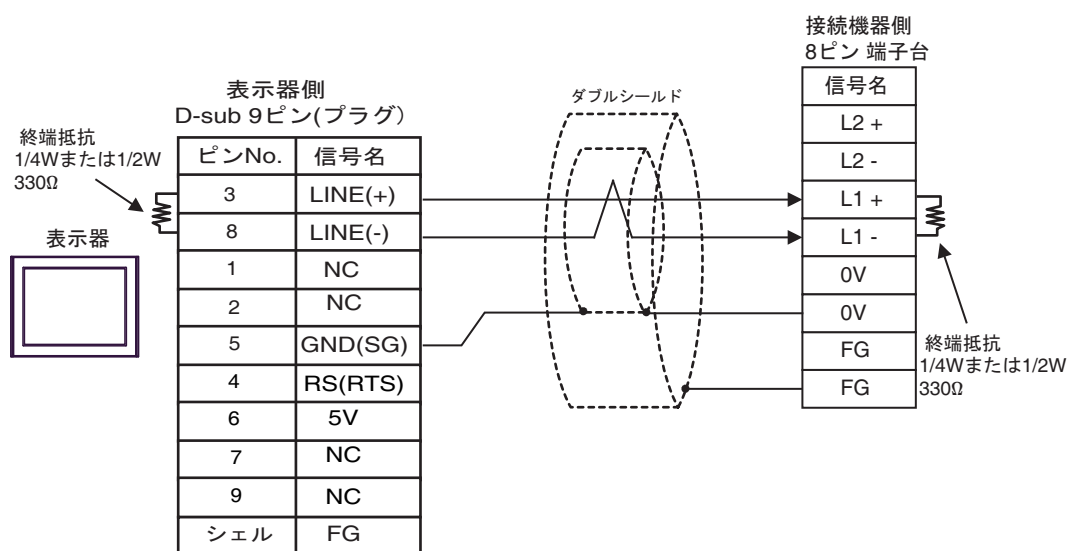


- *1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

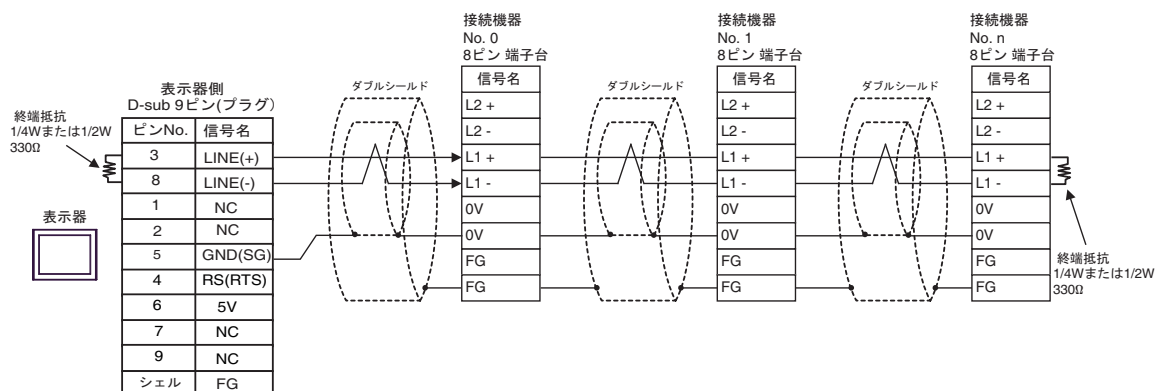
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

2H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

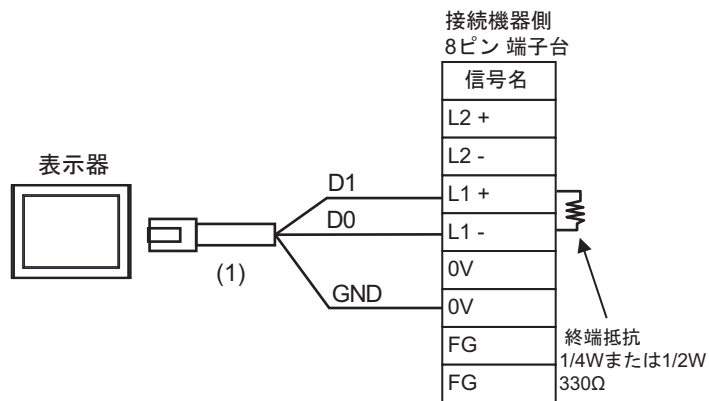
- 表示器の5V出力(6番ピン)はSiemens製PROFIBUSコネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

MEMO

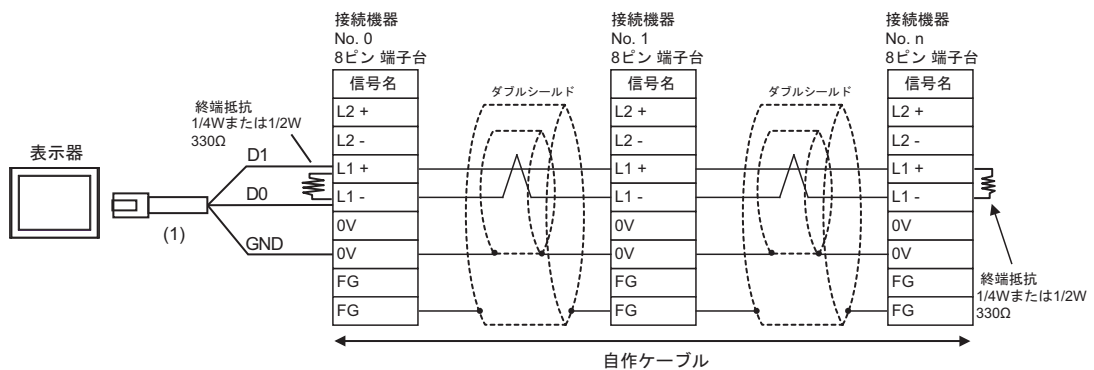
- GP-4107のCOMではSGとFGが絶縁されています。

2J)

- 1 : 1 接続の場合



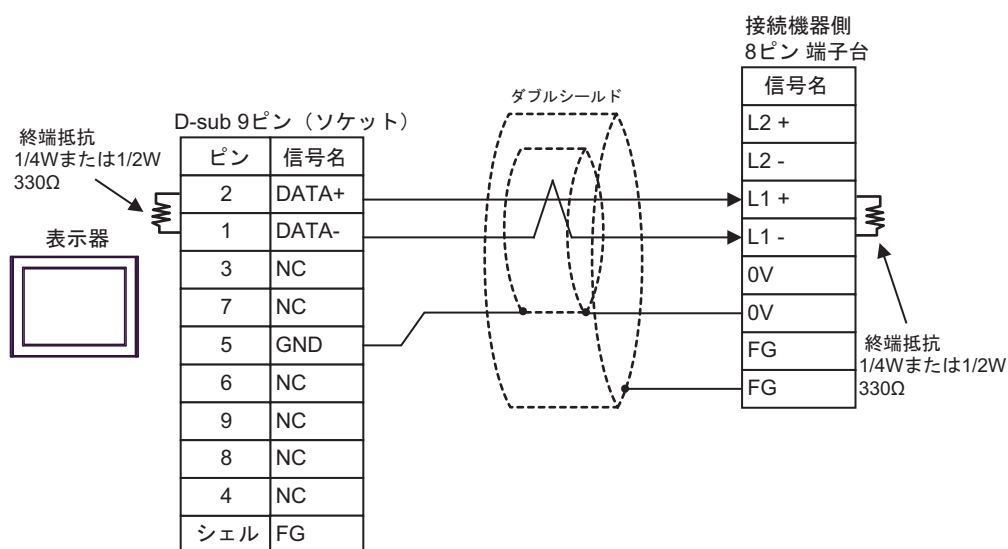
- 1 : n 接続の場合



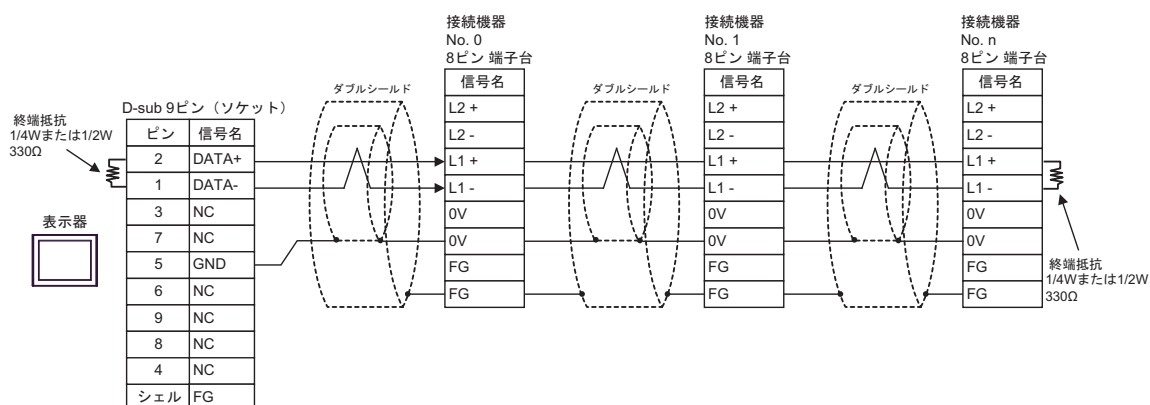
番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	

2K)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 3

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000※ ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST※ ² (COM2) LT3000 (COM1) IPC※ ³	3A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてく ださい。
	3B	自作ケーブル	
GP3000※ ⁴ (COM2)	3C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてく ださい。
	3D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	3E	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてく ださい。
GP4000※ ⁵ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	3F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1※ ⁶ + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてく ださい。
	3B	自作ケーブル	
PE-4000B※ ⁷	3G	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内にしてく ださい。

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B を除く)

☞ ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※5 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種

※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
場合、3A の結線図を参照してください。

※7 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

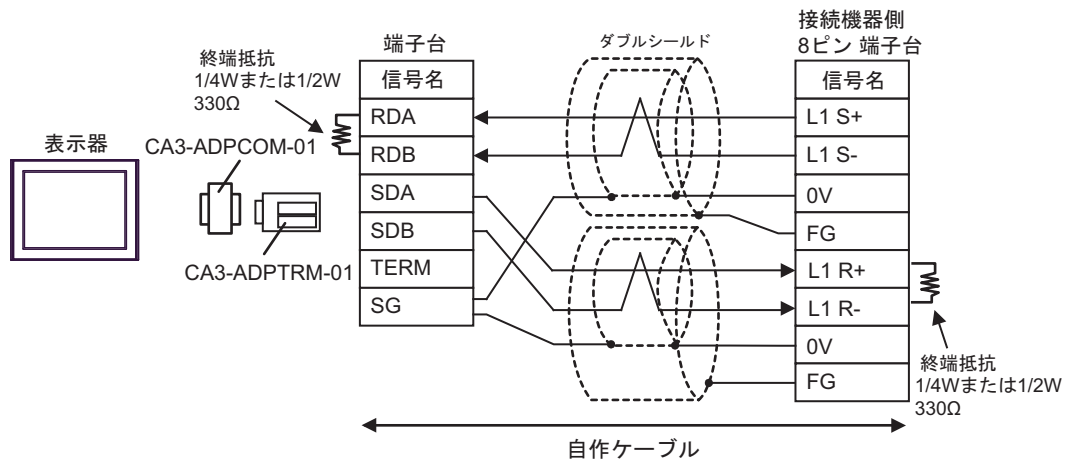
☞ ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

MEMO

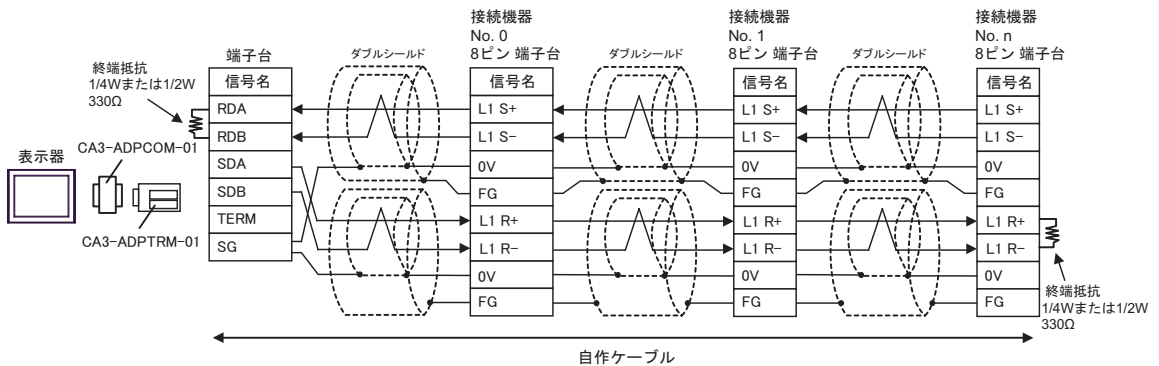
- 接続ケーブルとして中国電線工業（株）製 2 重シールド 0-VCTF-SS 2C*0.75mm²、中国電線工業（株）製 2 重シールド UL2464-DSS 2C × 20AWG、倉茂電工（株）UL2464-2SB 2 × 20AWG を推奨します。
- 接続機器本体の FG 端子は、D 種接地を行ってください。
- シールド線への FG の接続は、設置環境によって接続機器側、表示器側のどちらかを選択してください。
- 通信ケーブルを結線する場合は、必ず SG を接続してください。
- RS-422 接続の場合、ケーブル長は（株）ジェイテクトのマニュアルを参照してください。

3A)

- 1 : 1 接続の場合

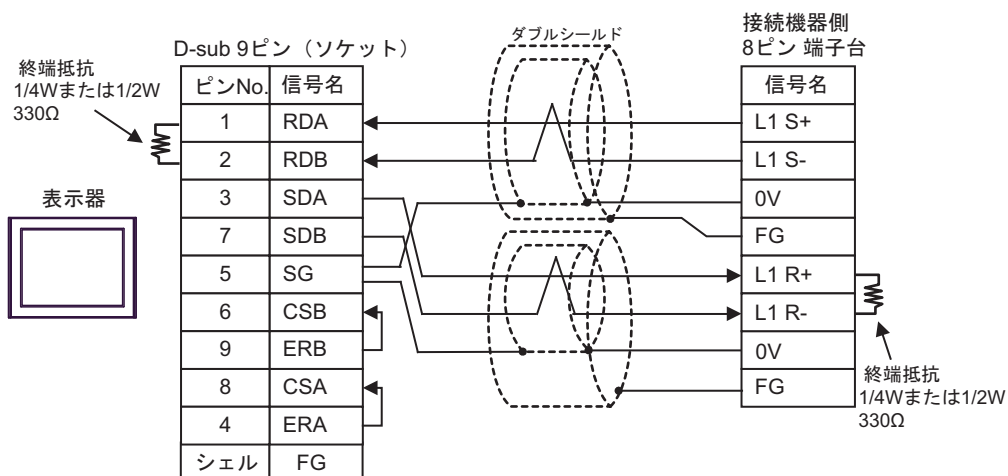


- 1 : n 接続の場合

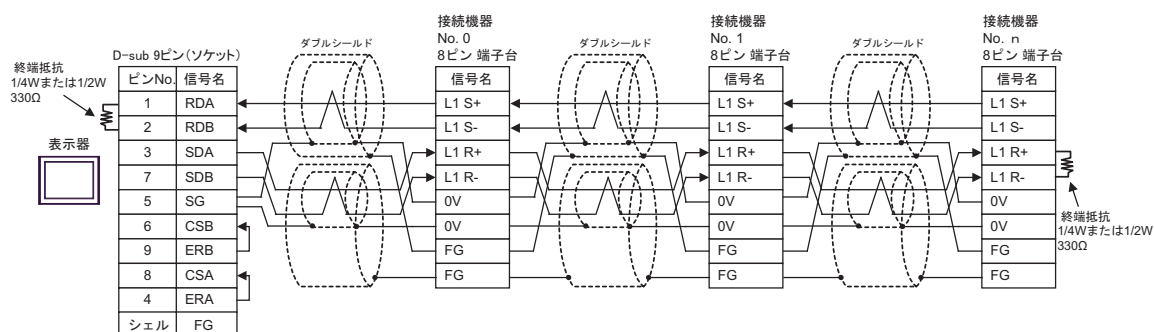


3B)

- 1 : 1 接続の場合

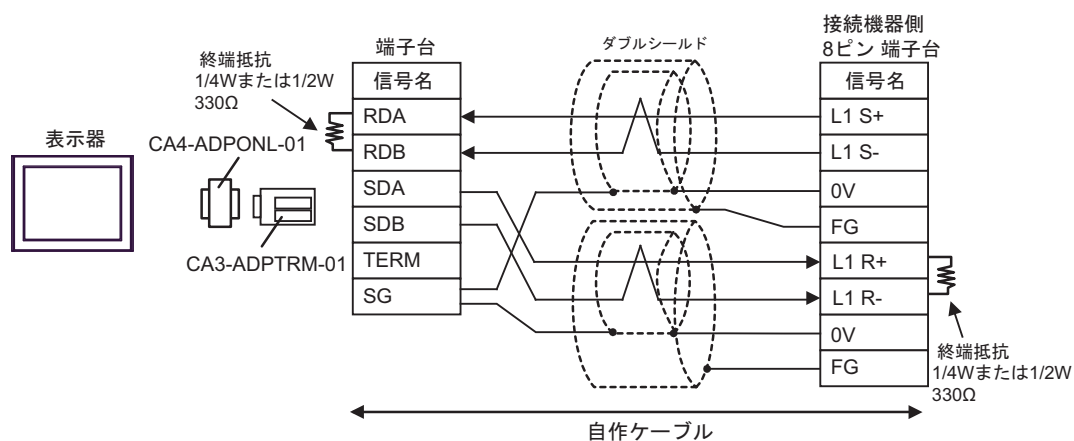


- 1 : n 接続の場合

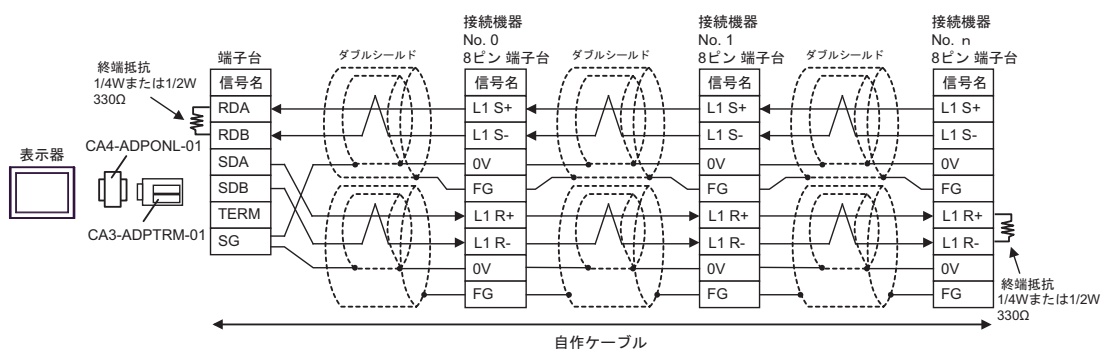


3C)

- 1 : 1 接続の場合

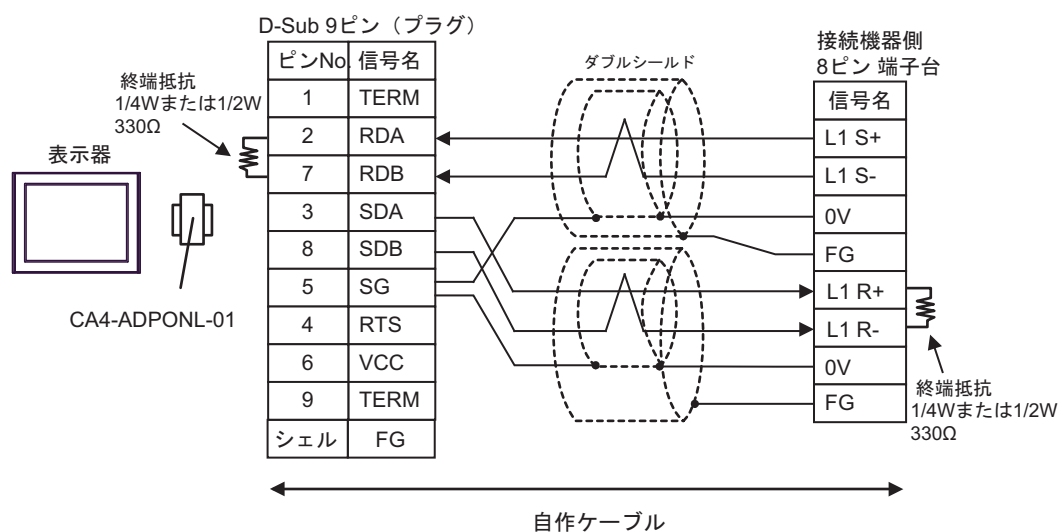


- 1 : n 接続の場合

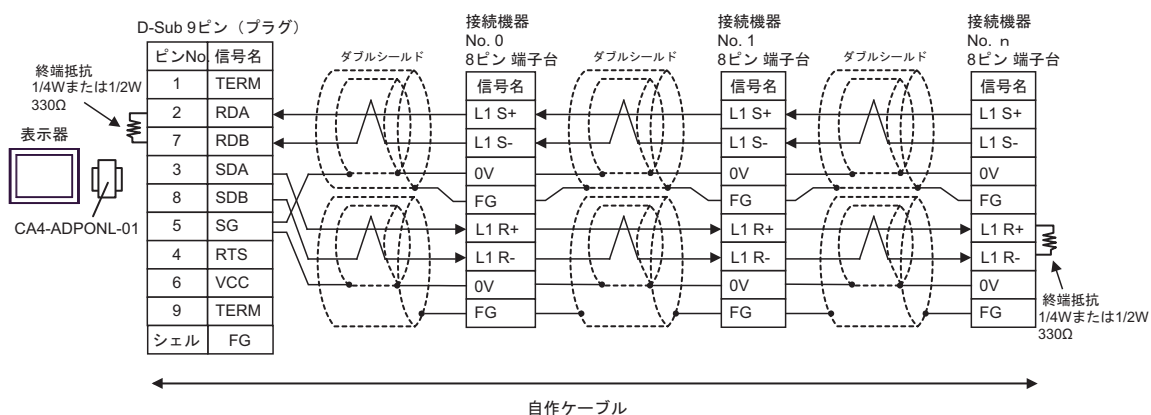


3D)

- 1 : 1 接続の場合

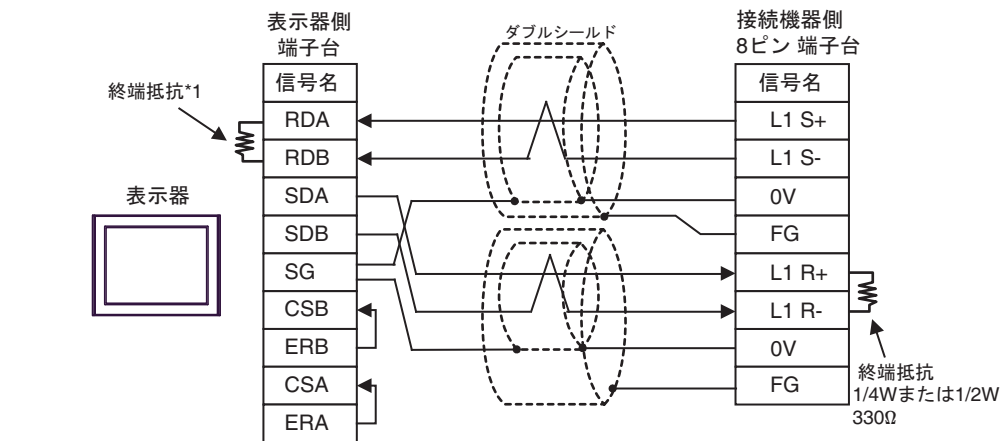


- 1 : n 接続の場合

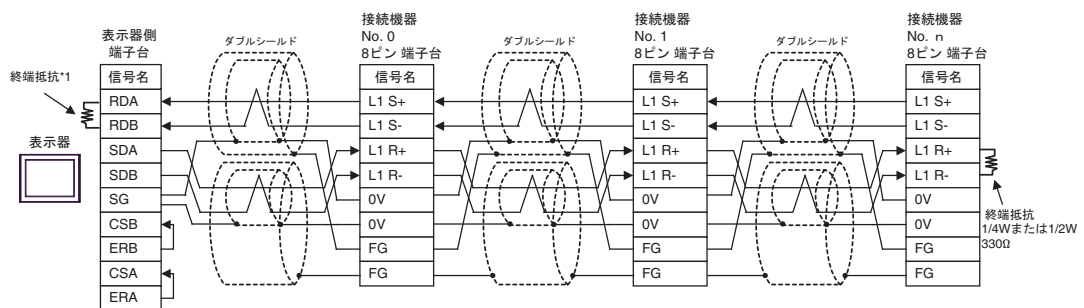


3E)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

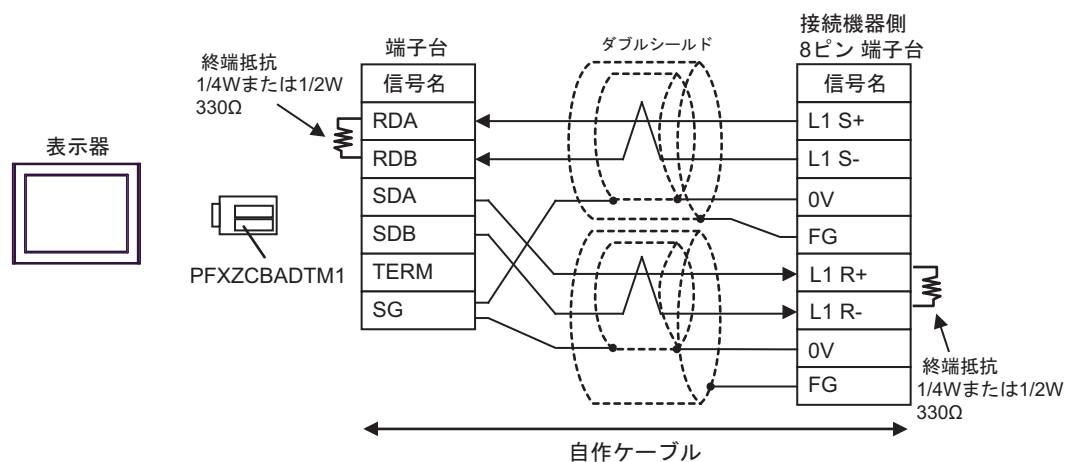


*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

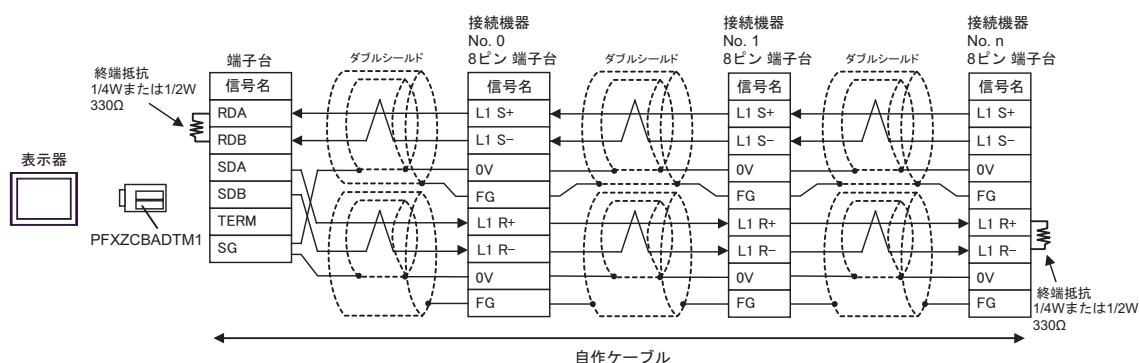
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

3F)

- 1 : 1 接続の場合

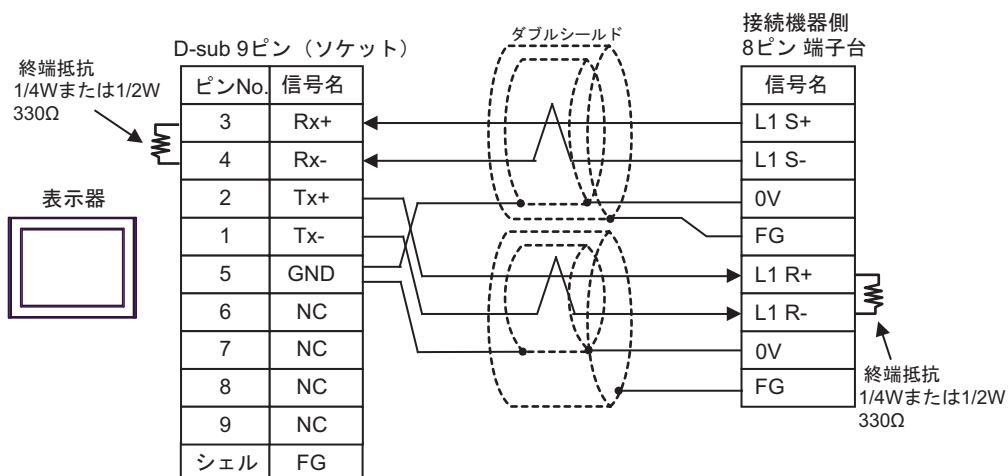


- 1 : n 接続の場合

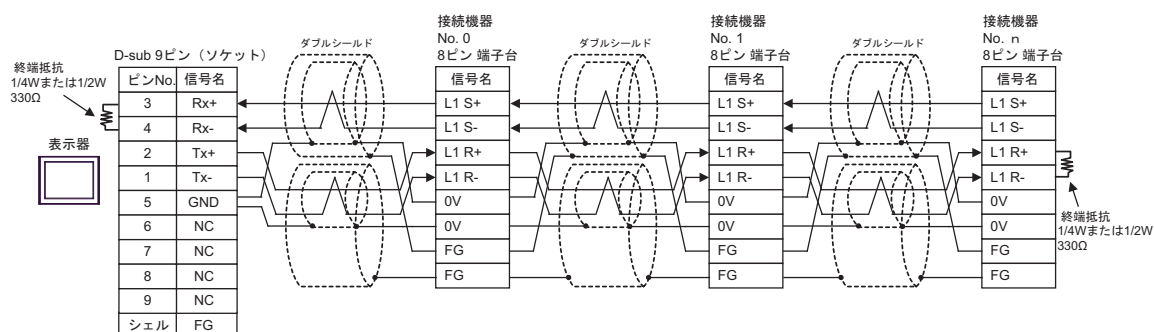


3G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 4

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000※ ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST※ ² (COM2) LT3000 (COM1)	4A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	4B	自作ケーブル	
GP3000※ ³ (COM2)	4C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	4D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC※ ⁴	4E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	4F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	4G	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
GP-4107 (COM1) GP-4*03T※ ⁵ (COM2) GP-4203T (COM1)	4H	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
GP4000※ ⁶ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	4I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1※ ⁷ + 自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。
	4B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	4J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	ケーブル長は 200m 以内に してください。
PE-4000B※ ⁸	4K	自作ケーブル	ケーブル長は 500m 以内に してください。

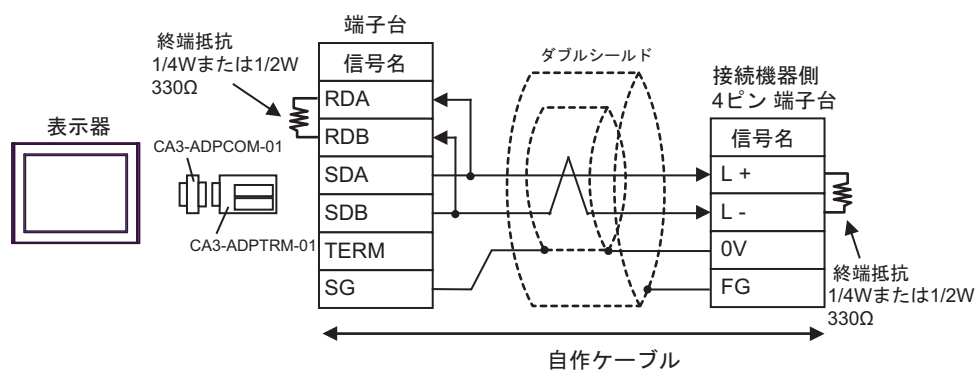
- ※ 1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種
- ※ 3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B を除く)
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
 場合、4A の結線図を参照してください。
- ※ 8 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

MEMO

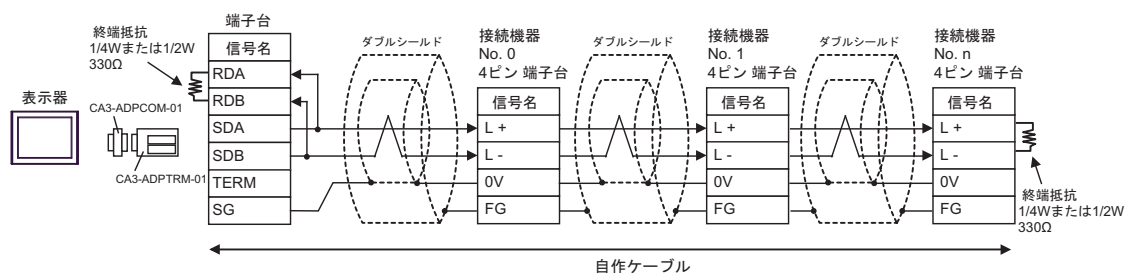
- 接続ケーブルとして中国電線工業 (株) 製 2 重シールド 0-VCTF-SS 2C*0.75mm²、
 中国電線工業 (株) 製 2 重シールド UL2464-DSS 2C × 20AWG、倉茂電工 (株)
 UL2464-2SB 2 × 20AWG を推奨します。
 - 接続機器本体の FG 端子は、D 種接地を行ってください。
 - シールド線への FG の接続は、設置環境によって接続機器側、表示器側のどちらか
 を選択してください。
 - 通信ケーブルを結線する場合は、必ず SG を接続してください。
 - RS-422 接続の場合、ケーブル長は (株) ジェイテクトのマニュアルを参照してくだ
 さい。
-

4A)

- 1 : 1 接続の場合

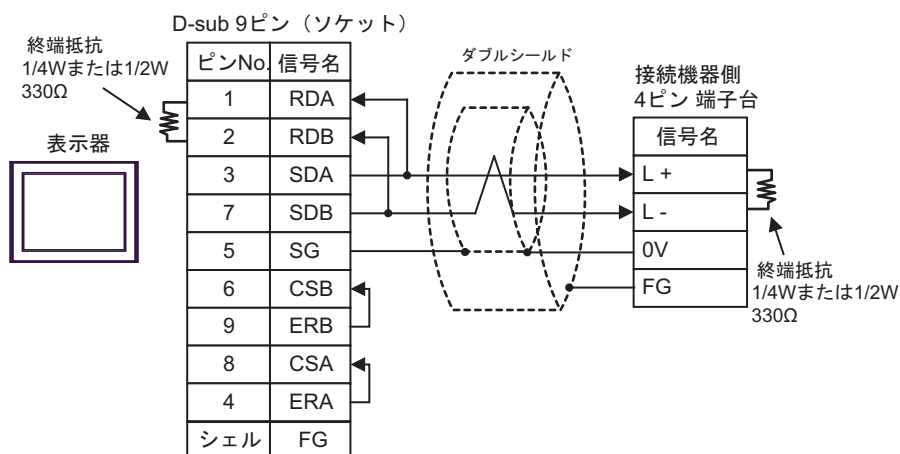


- 1 : n 接続の場合

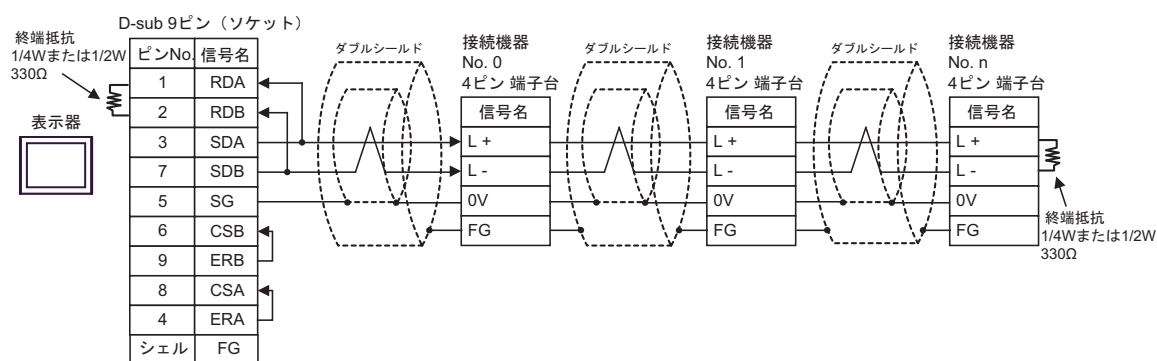


4B)

- 1 : 1 接続の場合

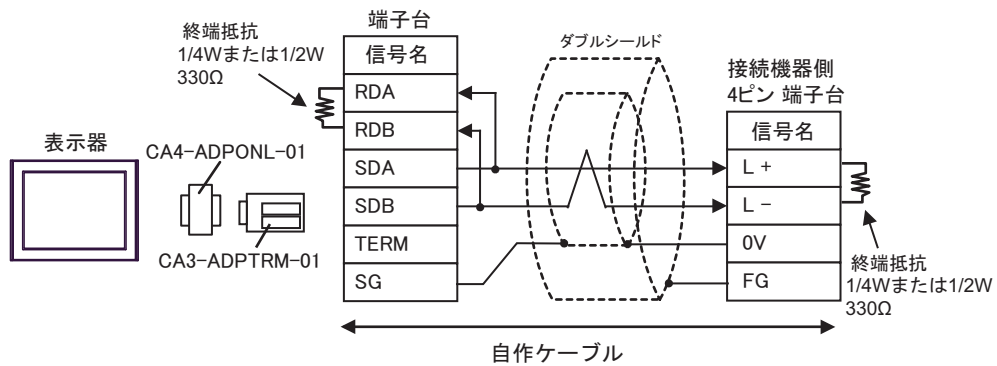


- 1 : n 接続の場合

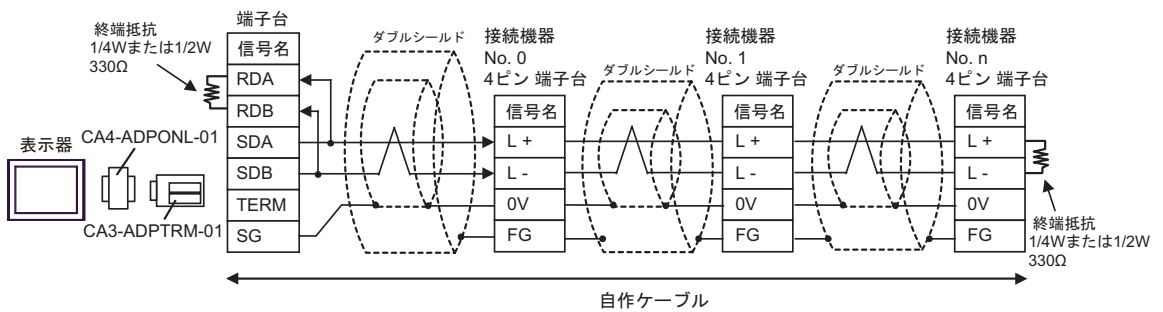


4C)

- 1 : 1 接続の場合

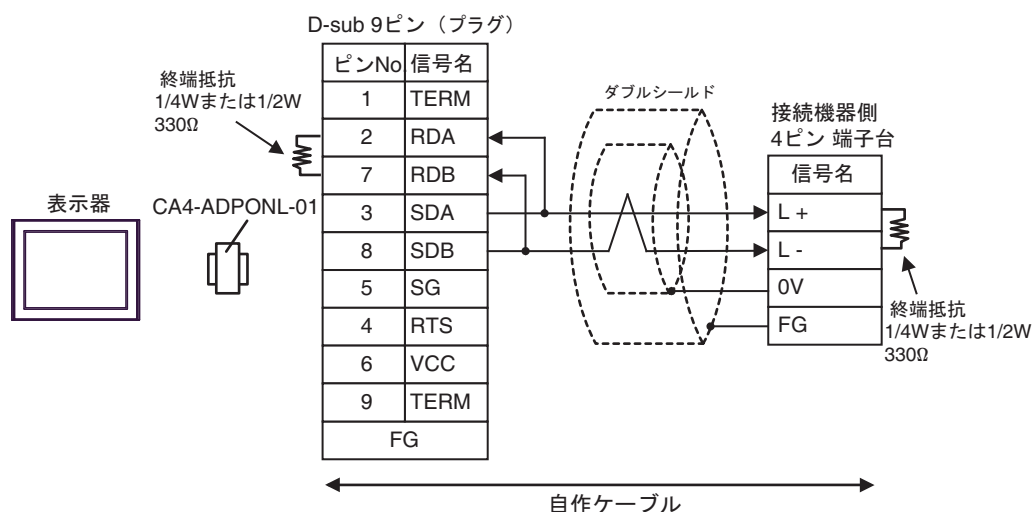


- 1 : n 接続の場合

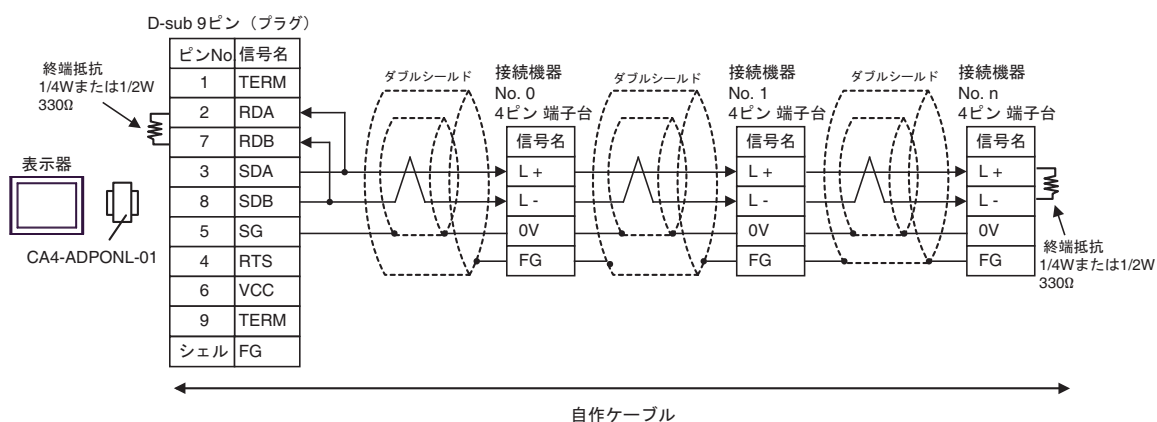


4D)

- 1 : 1 接続の場合

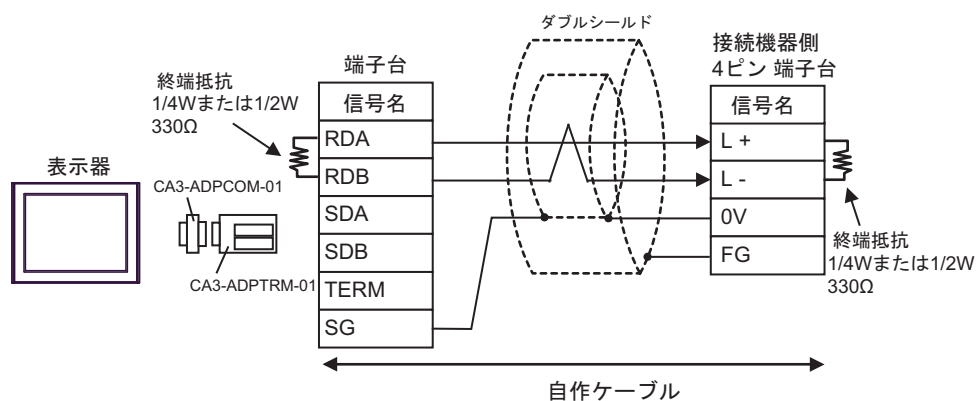


- 1 : n 接続の場合

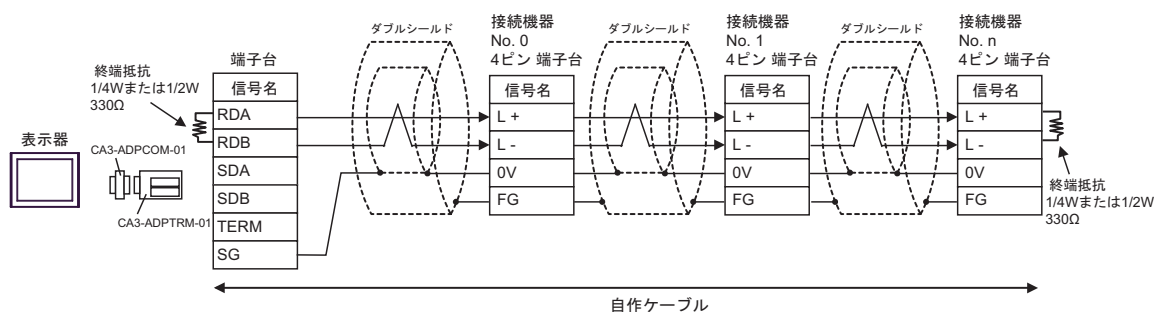


4E)

- 1 : 1 接続の場合

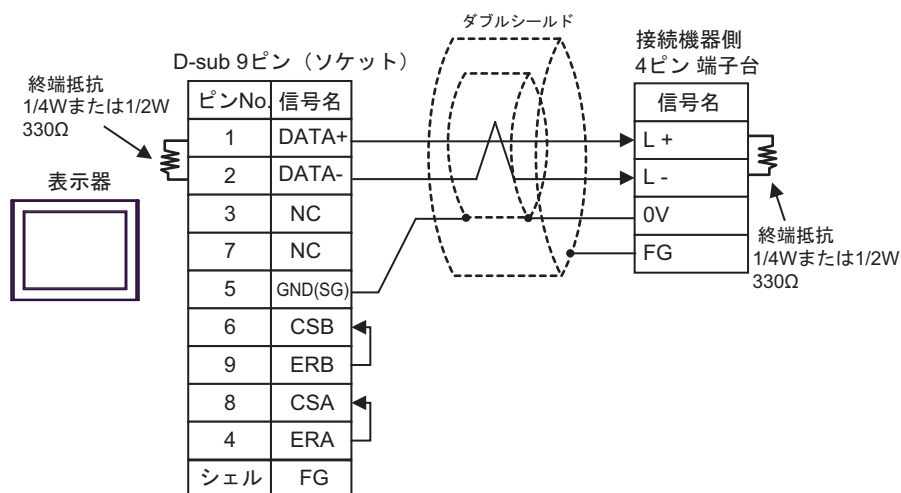


- 1 : n 接続の場合

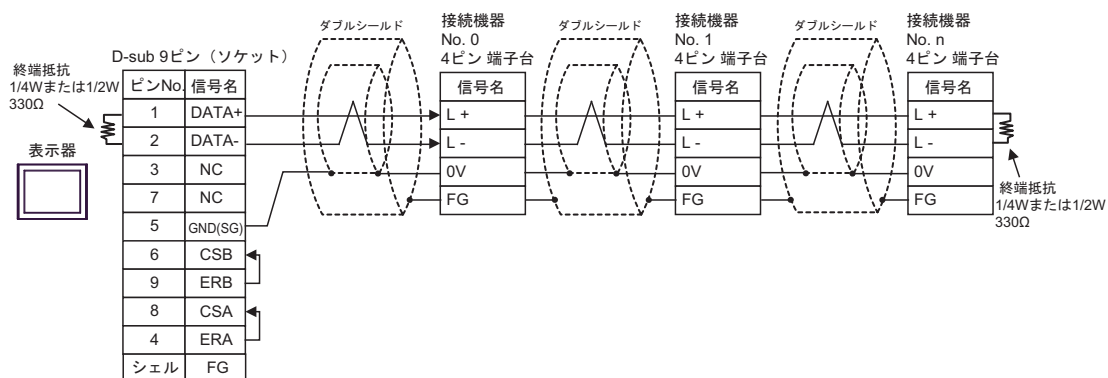


4F)

- 1 : 1 接続の場合

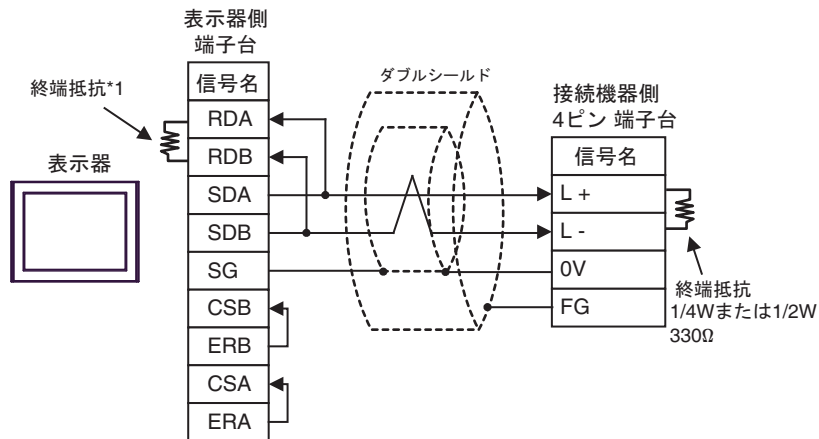


- 1 : n 接続の場合

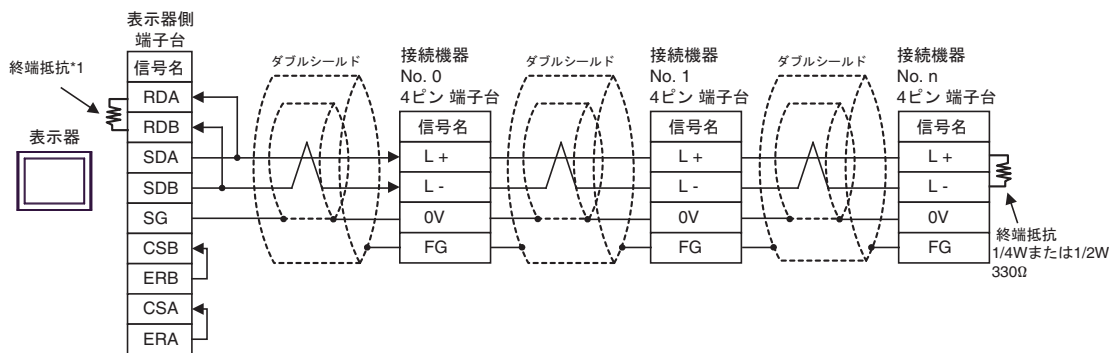


4G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

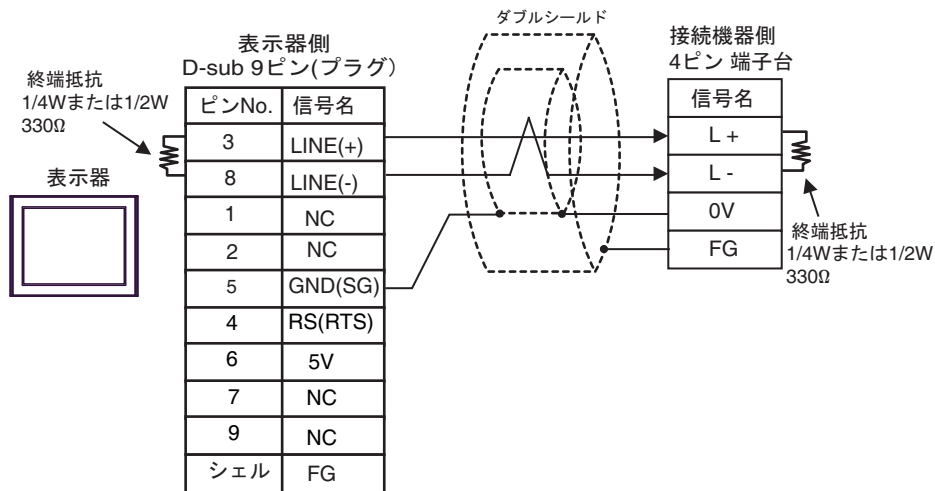


*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

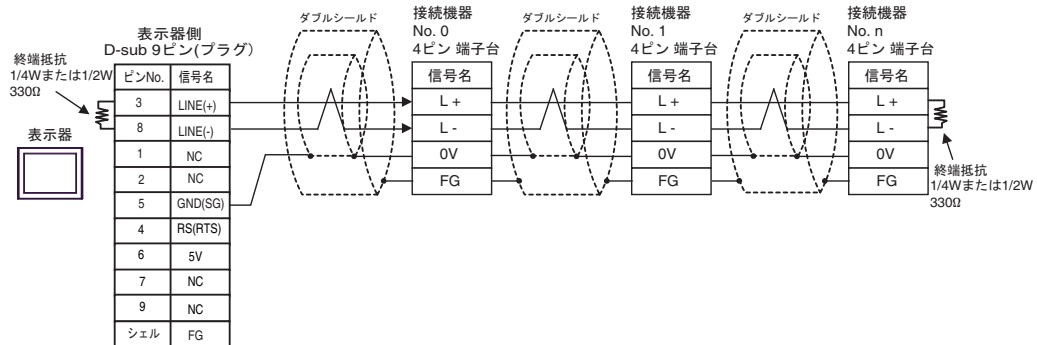
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

4H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

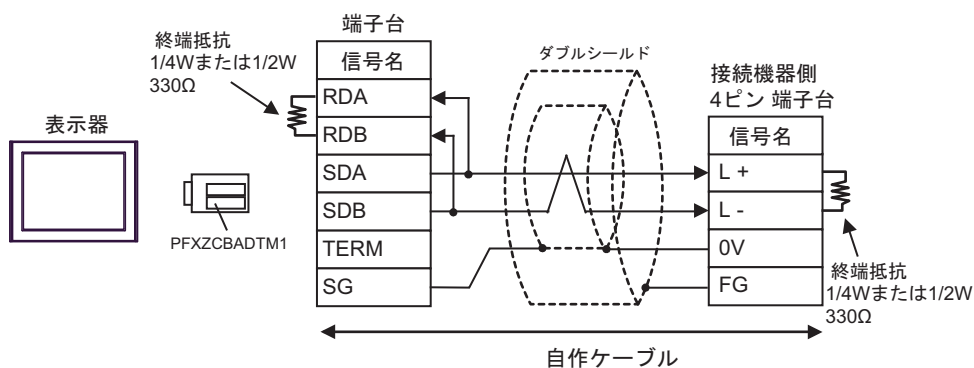
- 表示器の 5V 出力 (6 番ピン) は Siemens 製 PROFIBUS コネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

MEMO

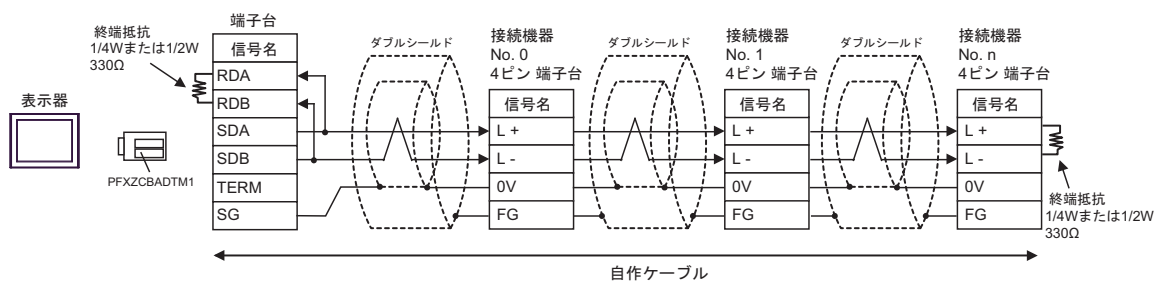
- GP-4107 の COM では SG と FG が絶縁されています。

4l)

- 1 : 1 接続の場合

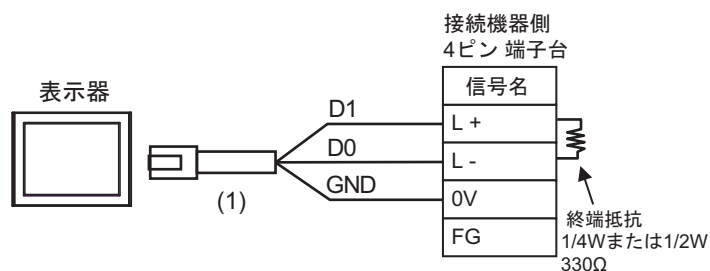


- 1 : n 接続の場合

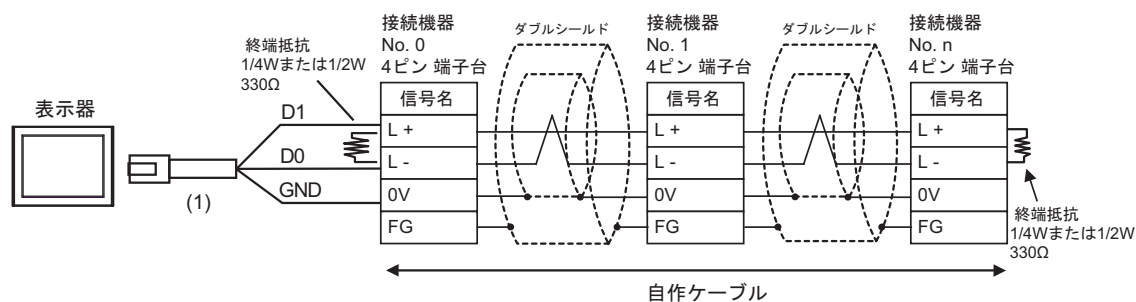


4J)

- 1 : 1 接続の場合



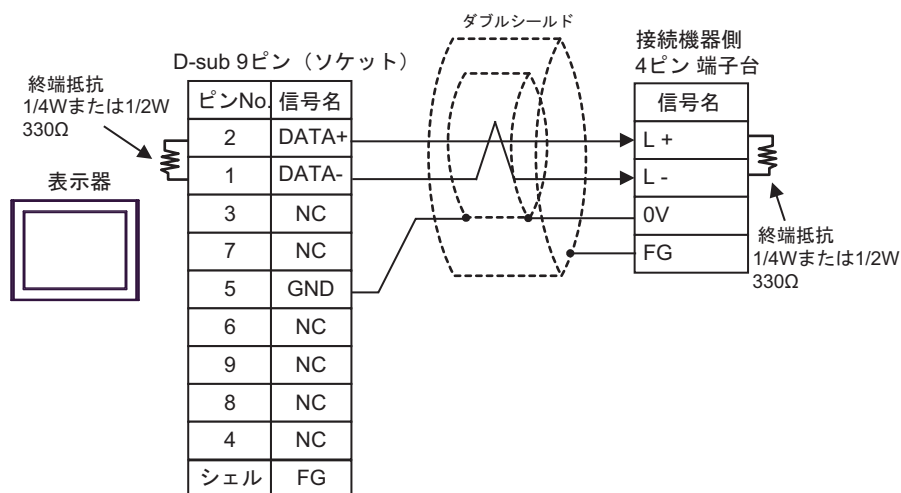
- 1 : n 接続の場合



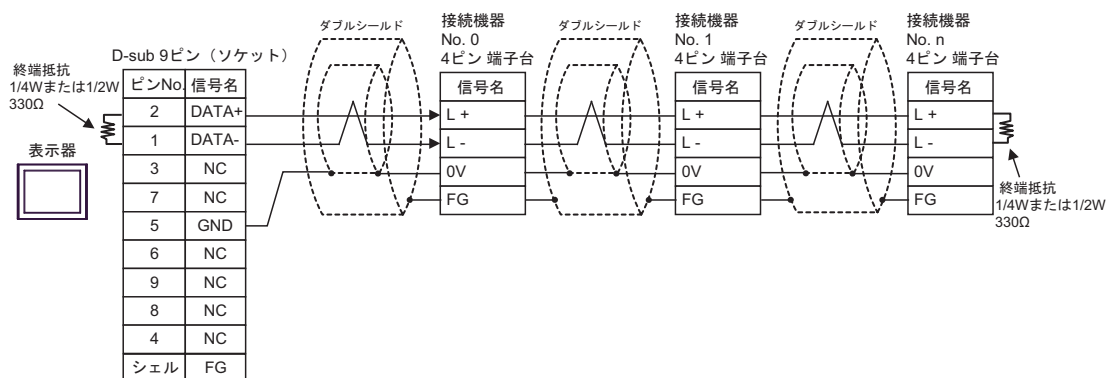
番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	

4K)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 5

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000※ ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST※ ² (COM2) LT3000 (COM1)	5A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	5B	自作ケーブル	
GP3000※ ³ (COM2)	5C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	5D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC※ ⁴	5E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	5F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	5G	自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
GP-4107 (COM1) GP-4*03T※ ⁵ (COM2) GP-4203T (COM1)	5H	自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
GP4000※ ⁶ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	5I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1※ ⁷ + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	5B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	5J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	ケーブル長は 5m 以内に してください。
PE-4000B※ ⁸	5K	自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。

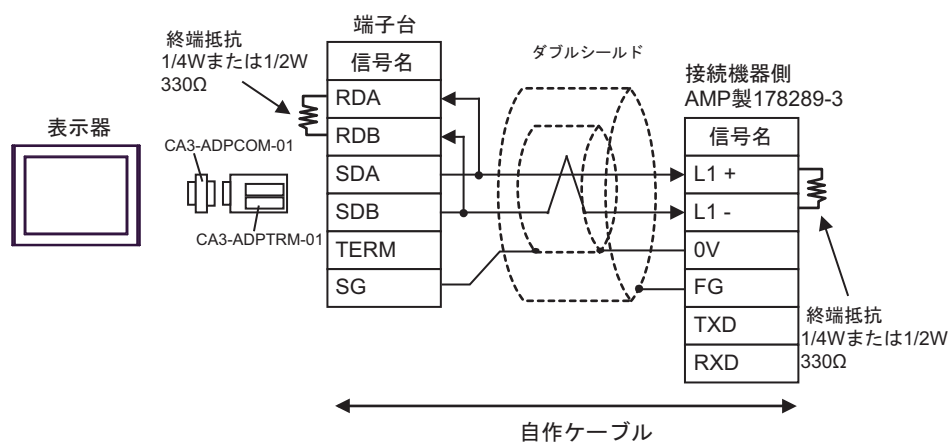
- ※ 1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種
- ※ 3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B を除く)
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
 場合、5A の結線図を参照してください。
- ※ 8 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

MEMO

- ・ 接続ケーブルとして中国電線工業 (株) 製 2 重シールド 0-VCTF-SS 2C*0.75mm²、
 中国電線工業 (株) 製 2 重シールド UL2464-DSS 2C × 20AWG、倉茂電工 (株)
 UL2464-2SB 2 × 20AWG を推奨します。
 - ・ 接続機器本体の FG 端子は、D 種接地を行ってください。
 - ・ シールド線への FG の接続は、設置環境によって接続機器側、表示器側のどちらか
 を選択してください。
 - ・ 通信ケーブルを結線する場合は、必ず SG を接続してください。
 - ・ RS-422 接続の場合、ケーブル長は (株) ジェイテクトのマニュアルを参照してくだ
 さい。
-

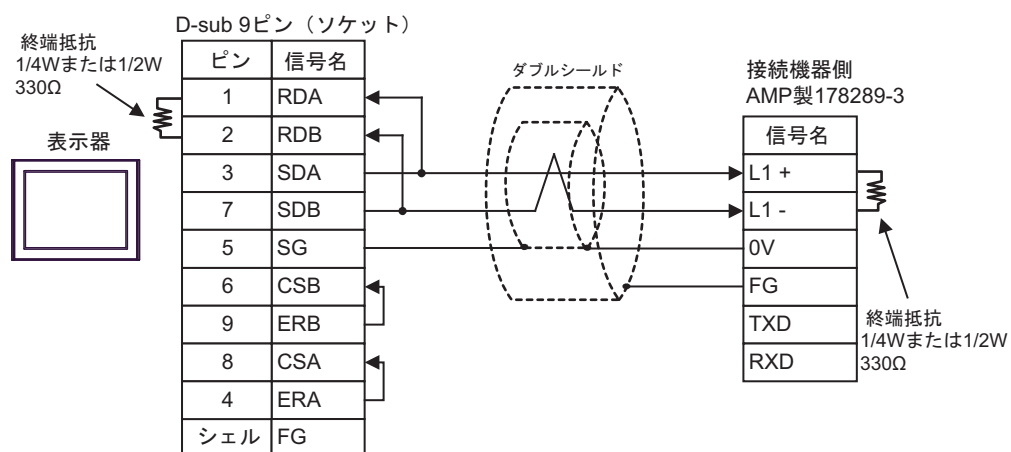
5A)

- 1 : 1 接続の場合



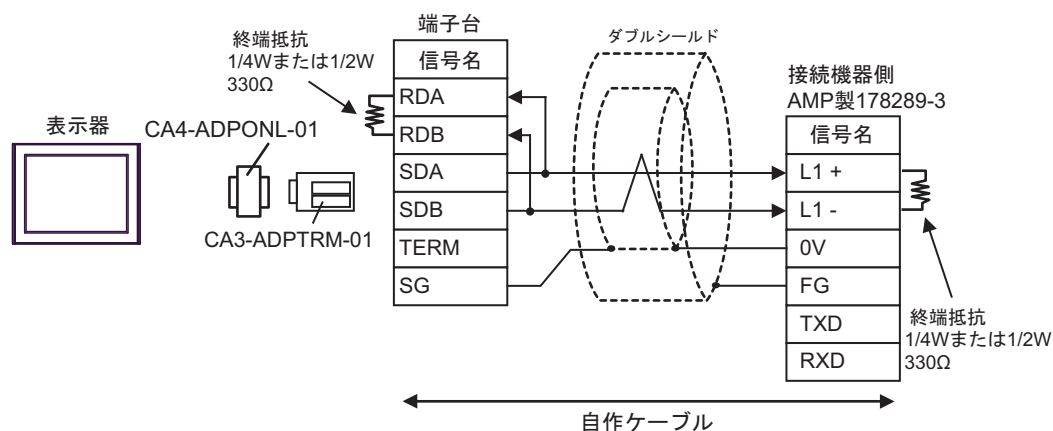
5B)

- 1 : 1 接続の場合



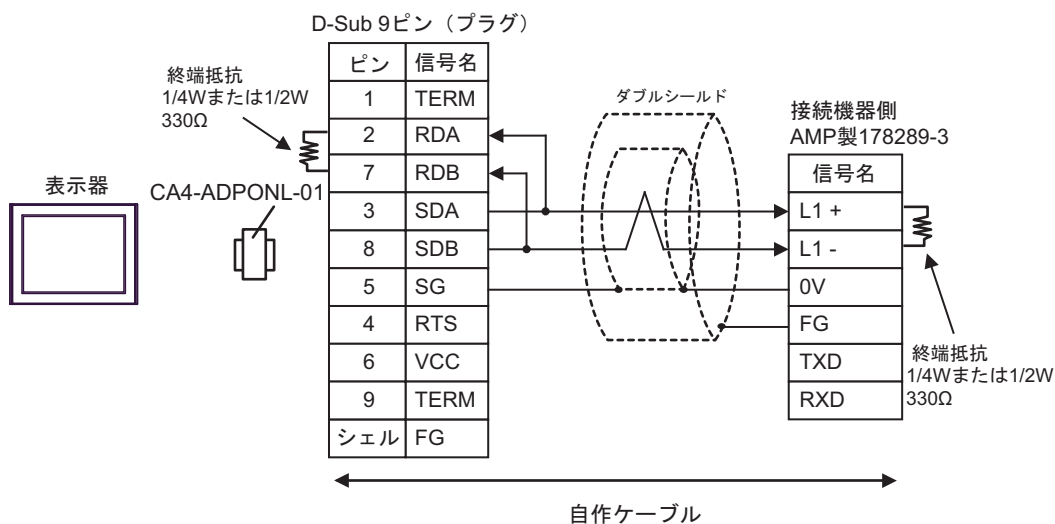
5C)

- 1 : 1 接続の場合



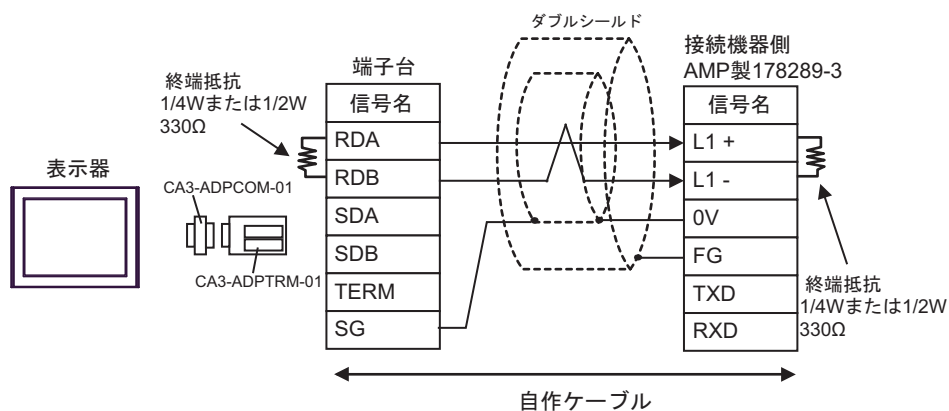
5D)

- 1 : 1 接続の場合



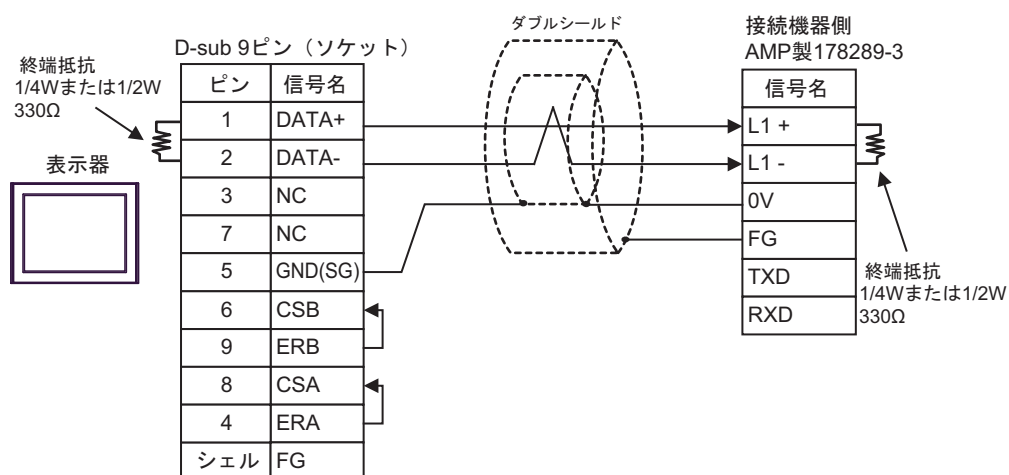
5E)

- 1 : 1 接続の場合



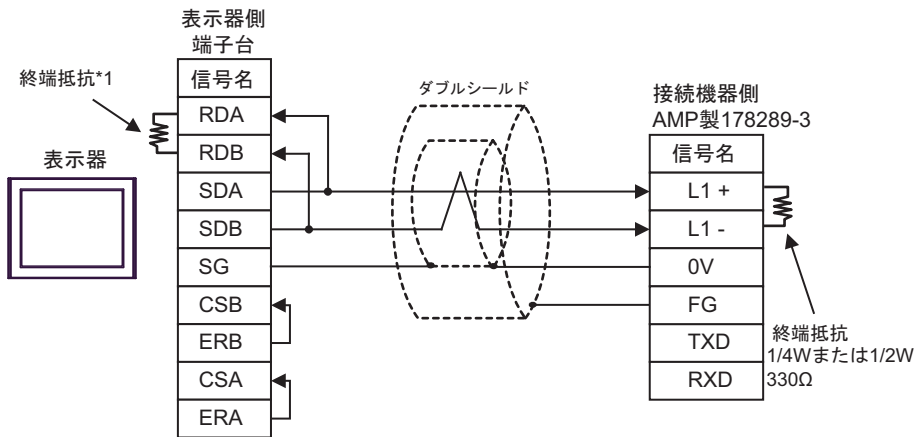
5F)

- 1 : 1 接続の場合



5G)

- 1 : 1 接続の場合

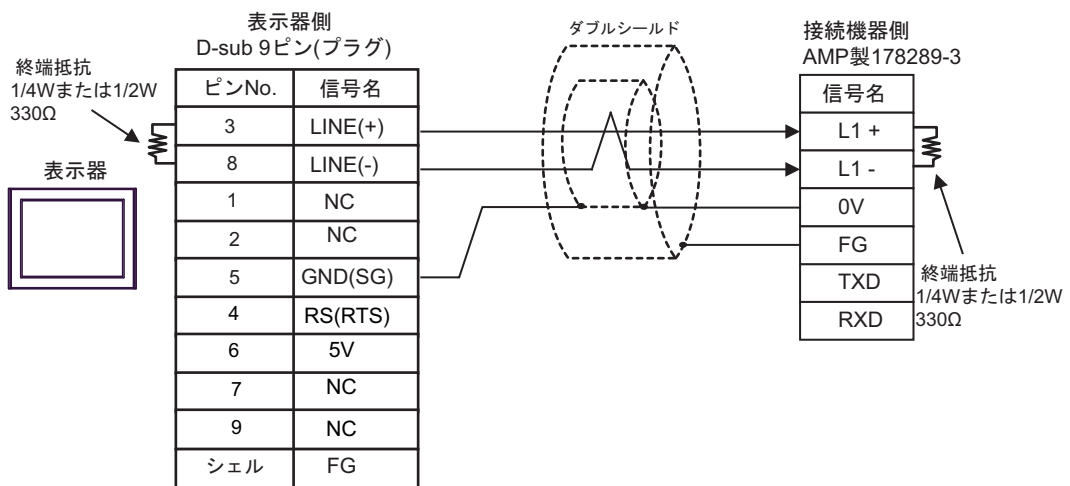


- *1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

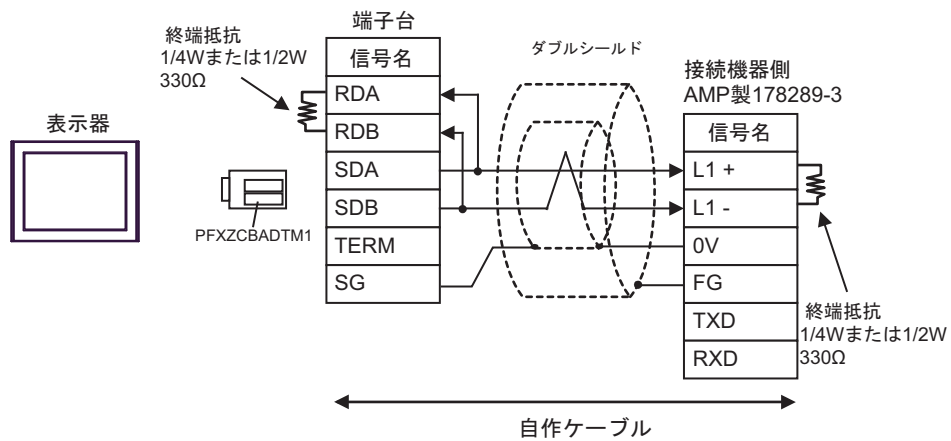
5H)

- 1 : 1 接続の場合



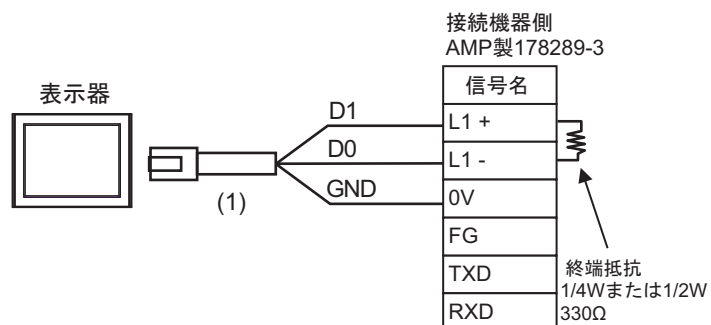
5I)

- 1 : 1 接続の場合



5J)

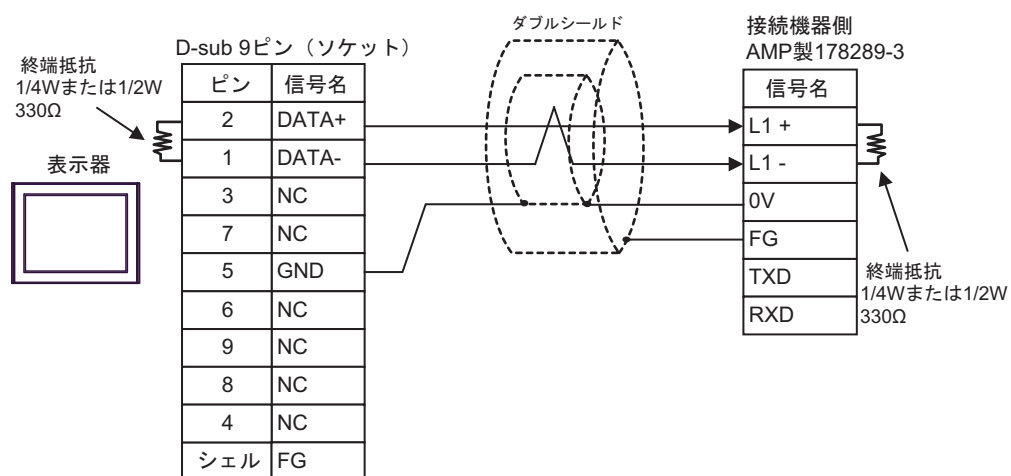
- 1 : 1 接続の場合



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCB RJR81	

5K)

- 1 : 1 接続の場合



結線図 6

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000※ ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) GP-Rear Module (COM1) ST※ ² (COM2) LT3000 (COM1)	6A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	6B	自作ケーブル	
GP3000※ ³ (COM2)	6C	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	6D	(株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC※ ⁴	6E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	6F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	6G	自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
GP-4107 (COM1) GP-4*03T※ ⁵ (COM2) GP-4203T (COM1)	6H	自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
GP4000※ ⁶ (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	6I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1※ ⁷ + 自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。
	6B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	6J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	ケーブル長は 200m 以内に してください。
PE-4000B※ ⁸	6K	自作ケーブル	ケーブル長は 1000m 以内に してください。

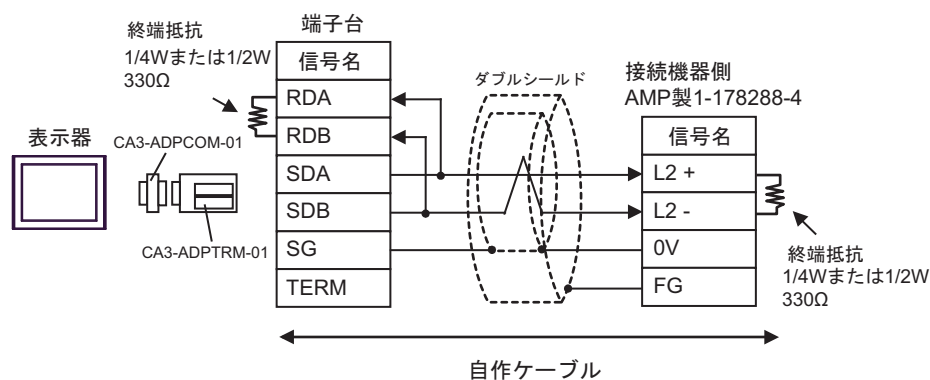
- ※ 1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種
- ※ 3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- ※ 4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。(PE-4000B を除く)
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4*01TM、GP-Rear Module、GP-4201T および GP-4*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する
 場合、6A の結線図を参照してください。
- ※ 8 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
 ■ IPC の COM ポートについて (5 ページ)

MEMO

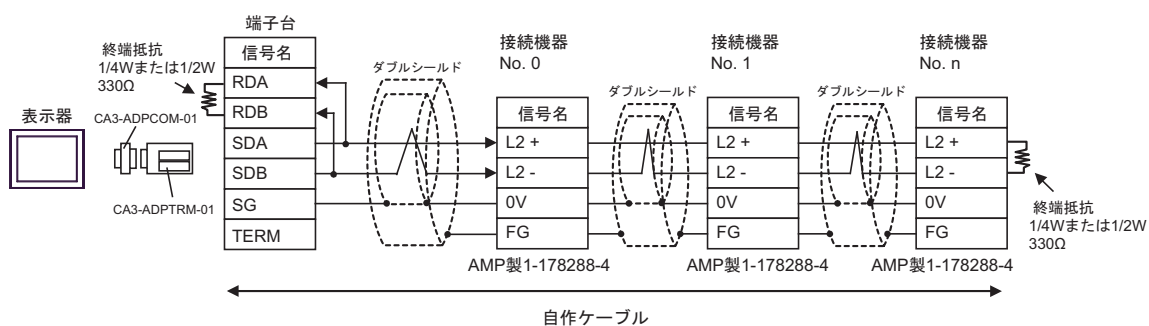
- 接続ケーブルとして中国電線工業 (株) 製 2 重シールド 0-VCTF-SS 2C*0.75mm²、
 中国電線工業 (株) 製 2 重シールド UL2464-DSS 2C × 20AWG、倉茂電工 (株)
 UL2464-2SB 2 × 20AWG を推奨します。
 - 接続機器本体の FG 端子は、D 種接地を行ってください。
 - シールド線への FG の接続は、設置環境によって接続機器側、表示器側のどちらか
 を選択してください。
 - 通信ケーブルを結線する場合は、必ず SG を接続してください。
 - RS-422 接続の場合、ケーブル長は (株) ジェイテクトのマニュアルを参照してくだ
 さい。
-

6A)

- 1 : 1 接続の場合

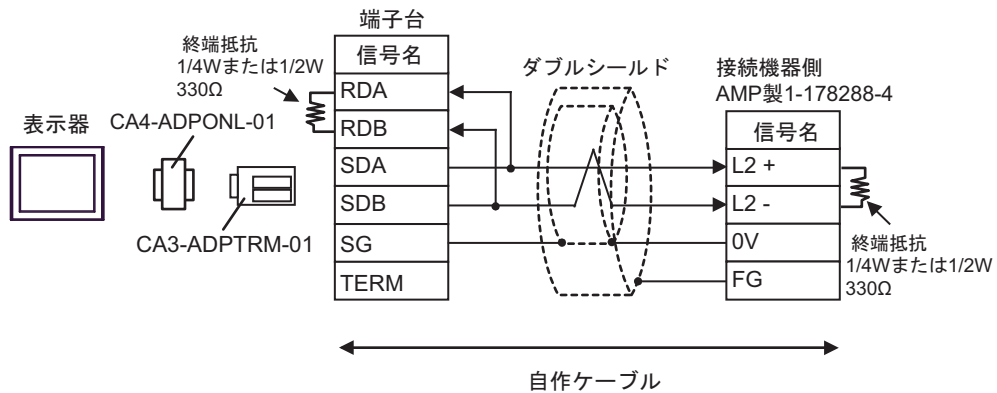


- 1 : n 接続の場合

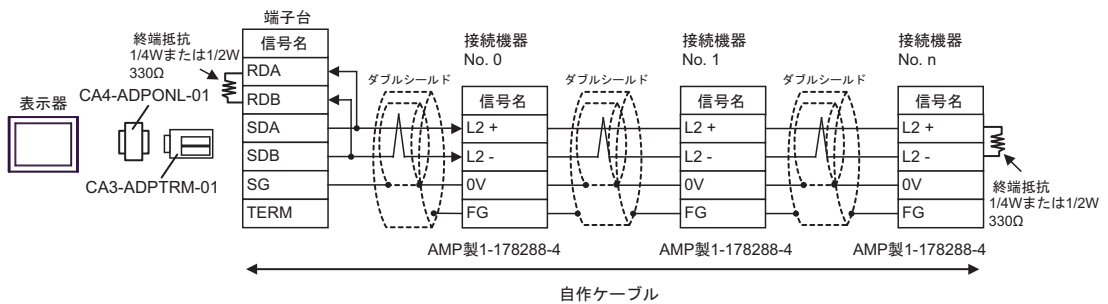


6C)

- 1:1 接続の場合

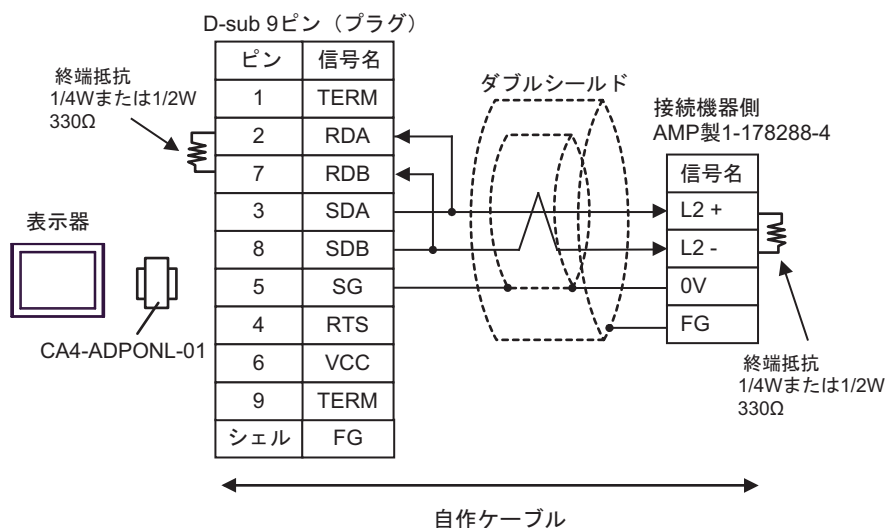


- 1 : n 接続の場合

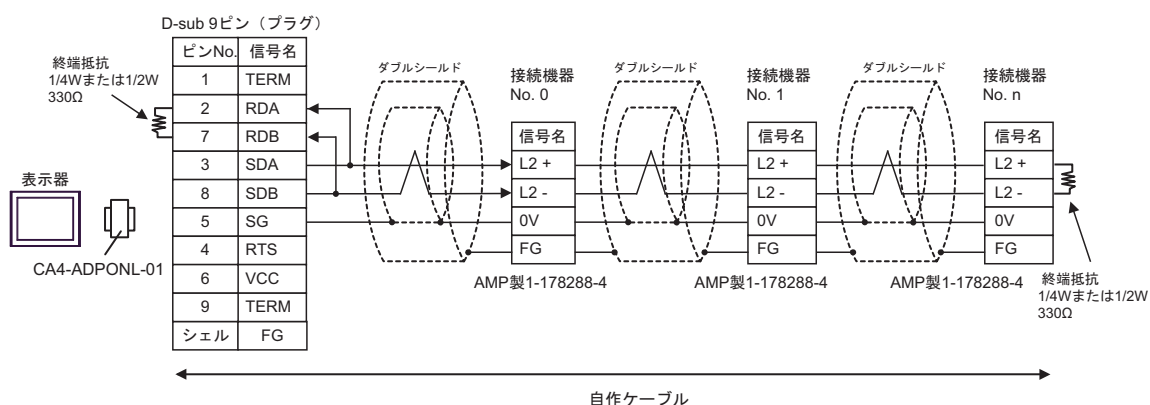


6D)

- 1 : 1 接続の場合

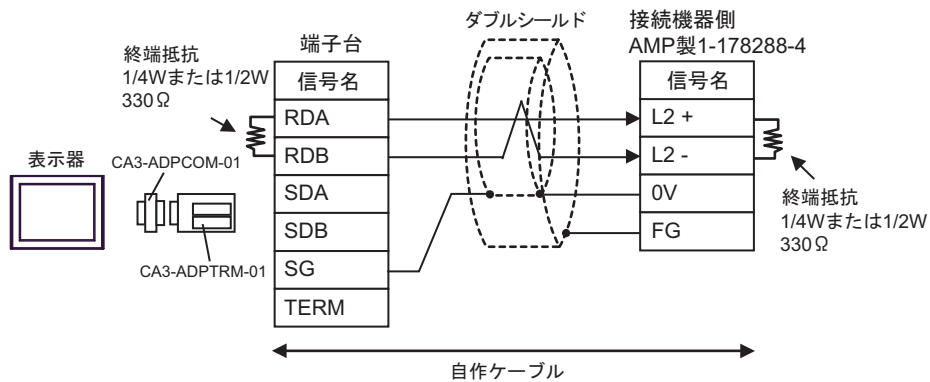


- 1 : n 接続の場合

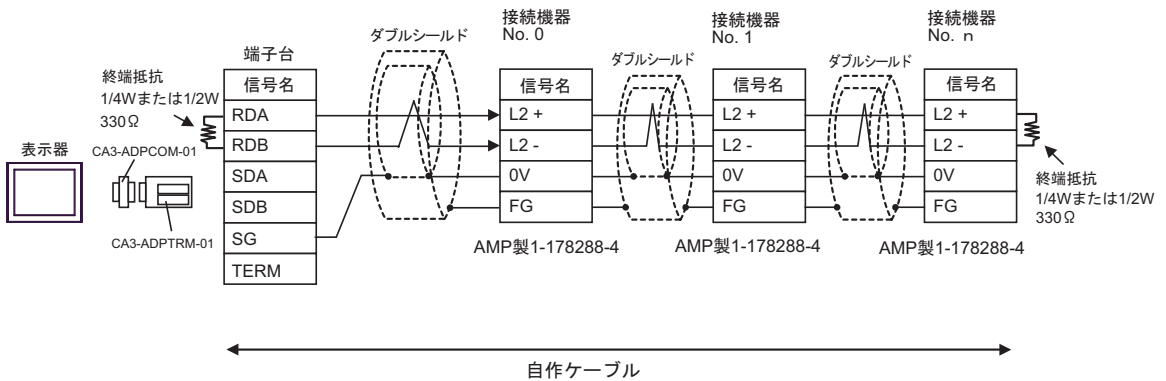


6E)

- 1 : 1 接続の場合

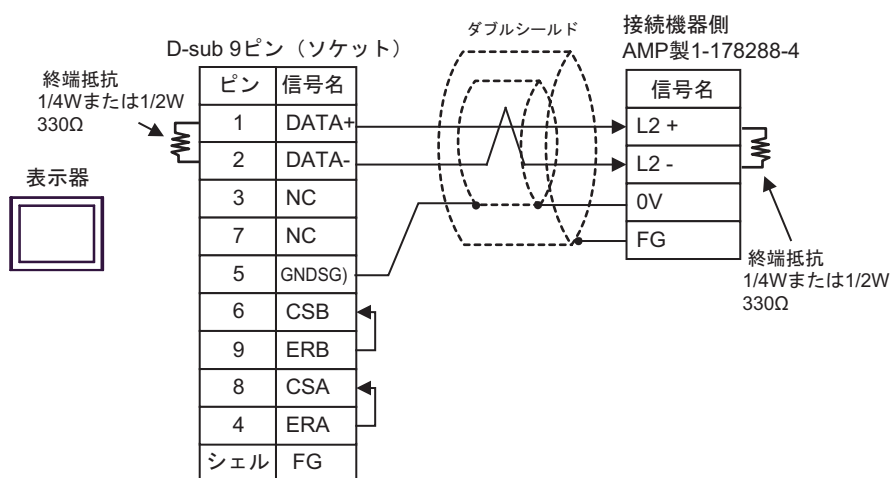


- 1 : n 接続の場合

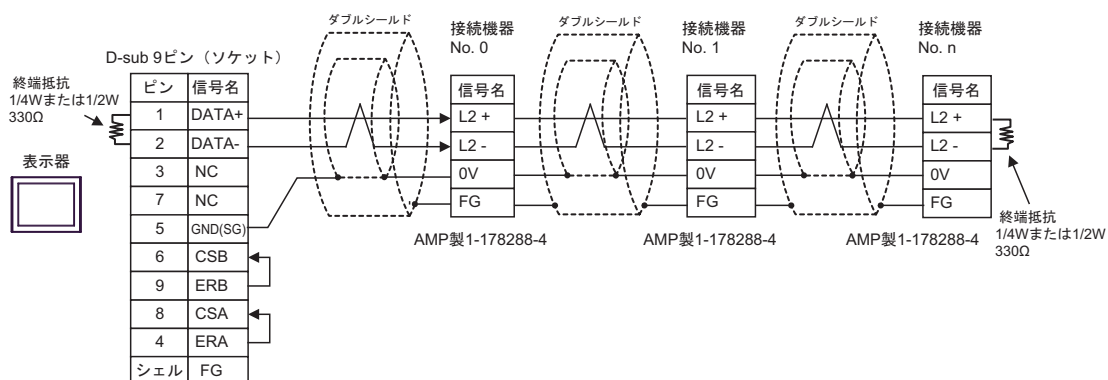


6F)

- 1 : 1 接続の場合

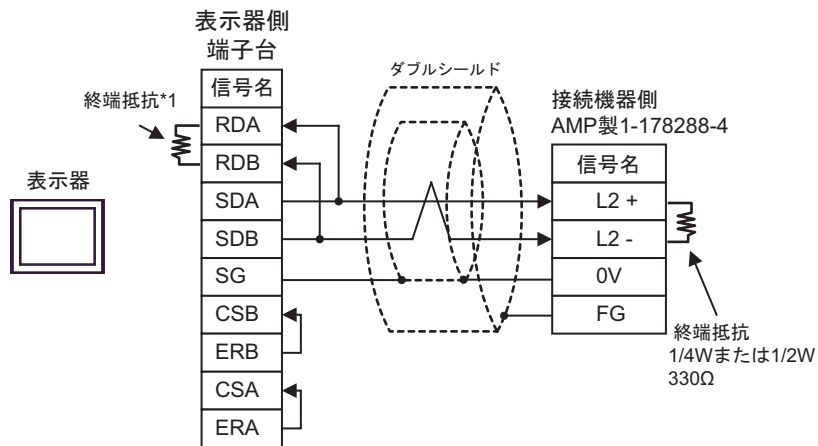


- 1 : n 接続の場合

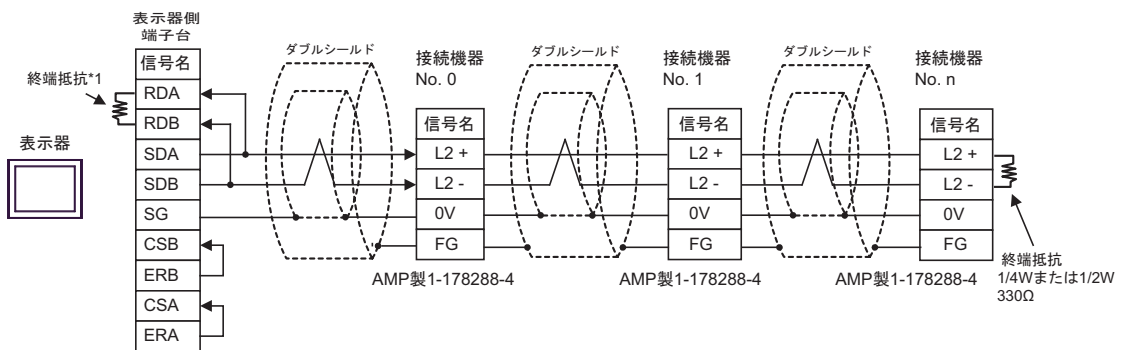


6G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

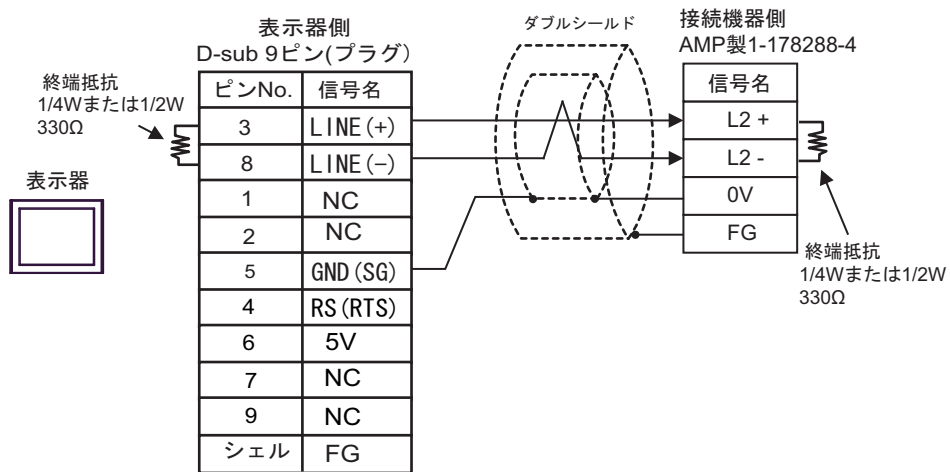


- *1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

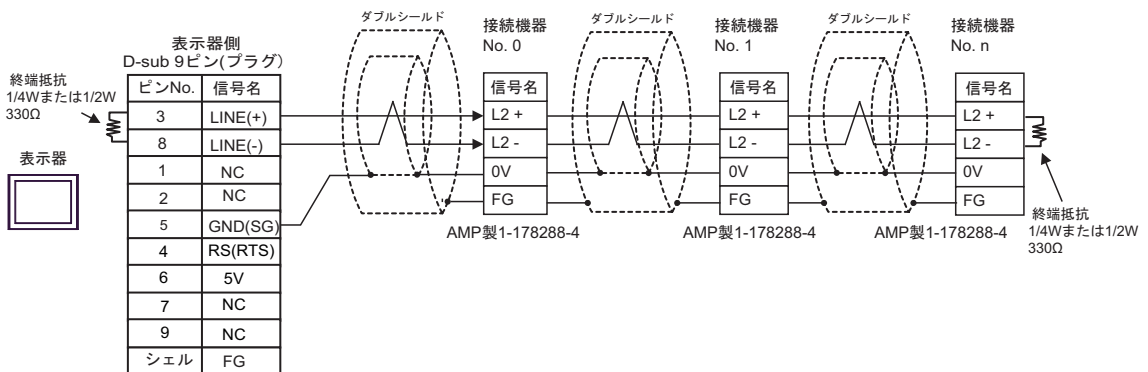
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	OFF

6H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

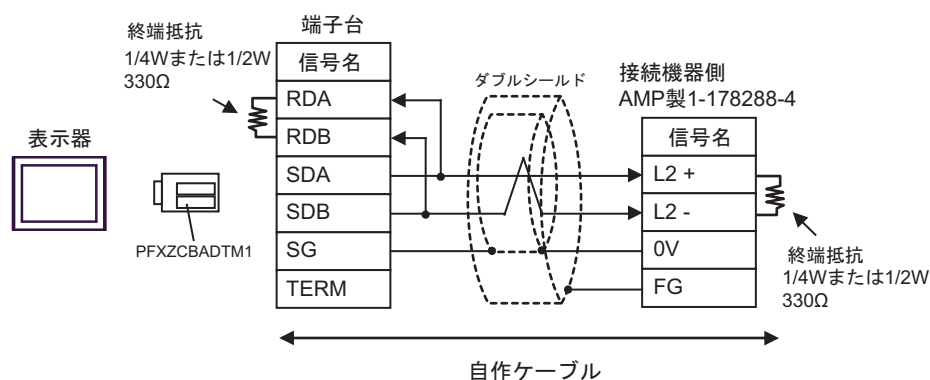
- 表示器の5V出力(6番ピン)はSiemens製PROFIBUSコネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

MEMO

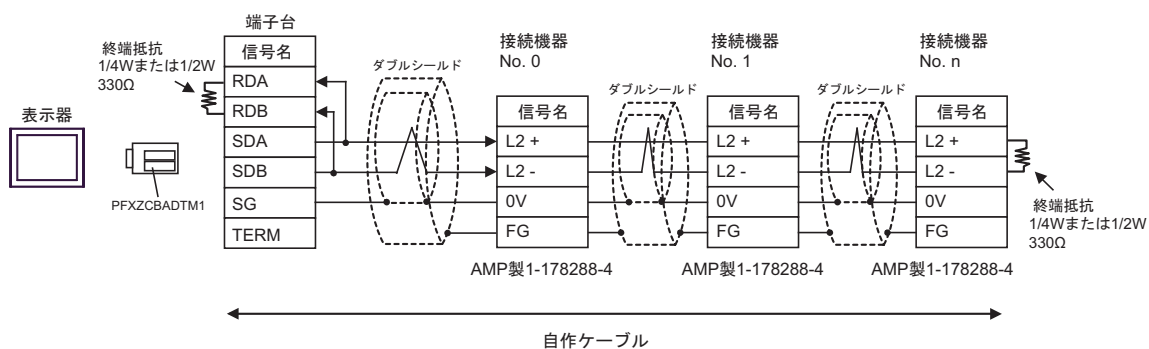
- GP-4107のCOMではSGとFGが絶縁されています。

6l)

- 1 : 1 接続の場合

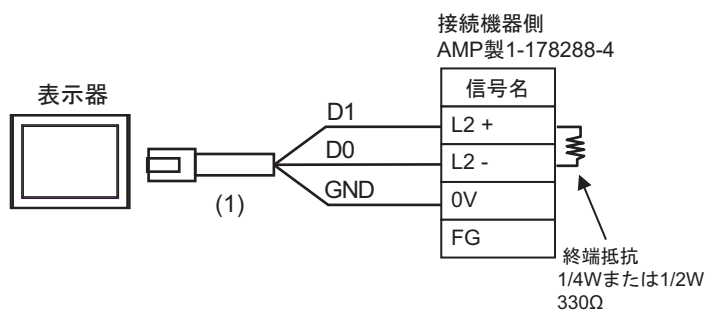


- 1 : n 接続の場合

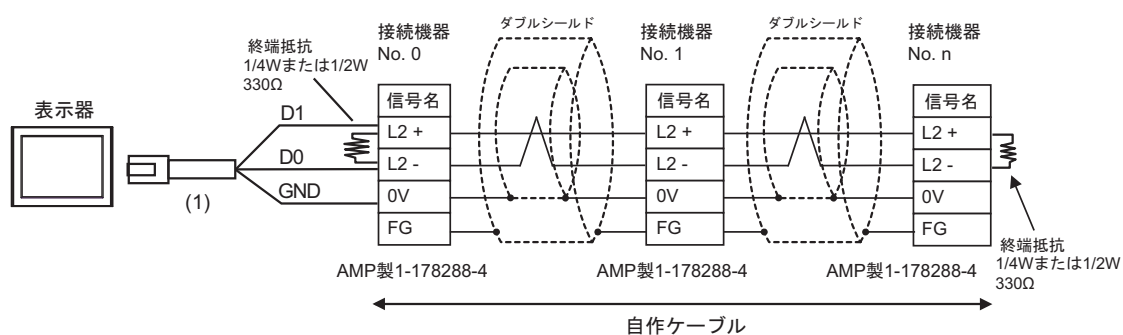


6J)

- 1 : 1 接続の場合



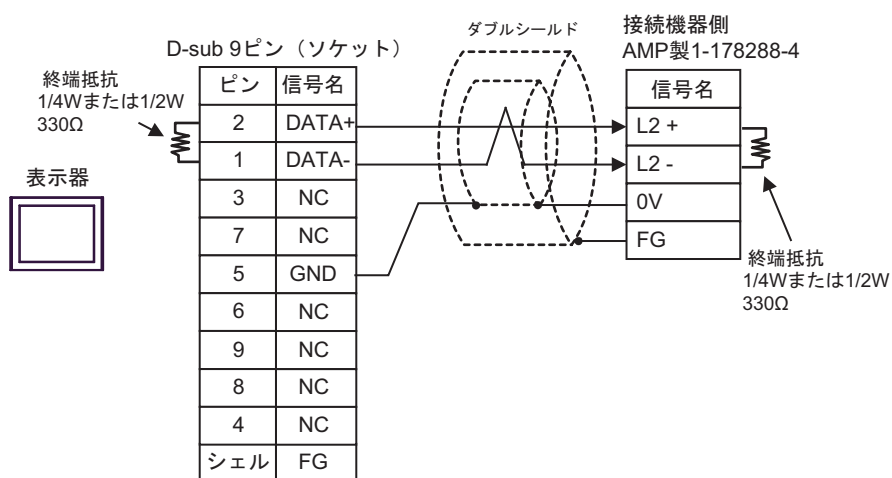
- 1 : n 接続の場合



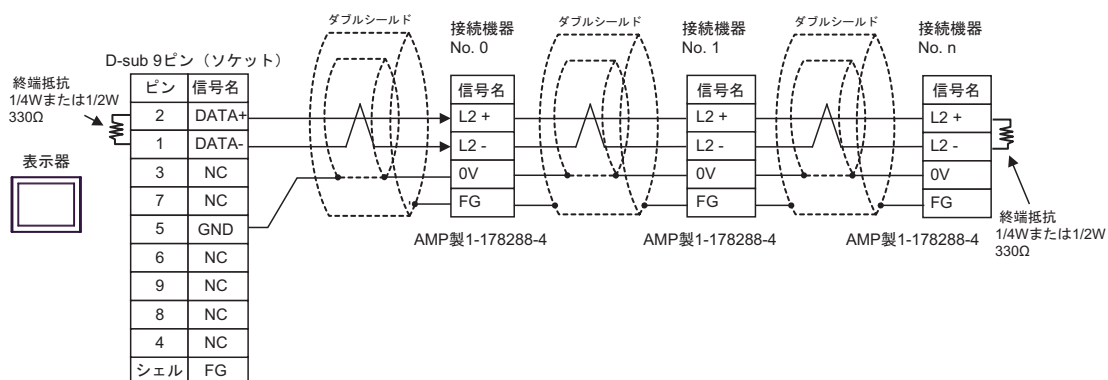
番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	

6K)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

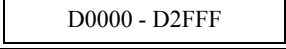


6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

6.1 PC2 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考※1
入力リレー	X0000 - X07FF	X000 - X07F		※2
出力リレー	Y0000 - Y07FF	Y000 - Y07F		※2
内部リレー	M0000 - M07FF	M000 - M07F		
キーブリレー	K0000 - K02FF	K000 - K02F		
リンクリレー	L0000 - L07FF	L000 - L07F		
特殊リレー	V0000 - V00FF	V000 - V00F		
エッジ検出	P0000 - P01FF	-----		
タイマ（接点）	T0000 - T01FF	T000 - T01F		※2
カウンタ（接点）	C0000 - C01FF	C000 - C01F		※2
現在値レジスタ	N0000-0 - N01FF-F	N0000 - N01FF		※3
データレジスタ	D0000-0 - D2FFF-F	 D0000 - D2FFF		※3
リンクレジスタ	R0000-0 - R07FF-F	R0000 - R07FF		※3
ファイルレジスタ	B0000-0 - B1FFF-F	B0000 - B1FFF		※3 ※4
特殊レジスタ	S0000-0 - S03FF-F	S0000 - S03FF		※3
時計時刻レジスタ	-----	WT0 - WT6		※5 ※6

※1 接続機器最大接続台数は16台です。

※2 XとY、TとCは重複してアドレスを付けることが出来ません。

(X000/Y000,EX000/EY000,T000/C000,ET000/EC000 とアドレスを付けることは誤りです。)

※3 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

※4 PC2J はファイルレジスタをサポートしていません。

※5 書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の全ての時計時刻レジスタを読み、読込んだ時計時刻レジスタの該当するワードアドレスを変更し、接続機器へ戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

※ 6 アドレスの仕様は以下の通りです。

アドレス	内容	備考
WT0	曜日	0 : 日曜 , 1: 月曜 , 2: 火曜 , 3: 水曜 , 4: 木曜 , 5: 金曜 , 6: 土曜
WT1	年	西暦下 2 桁
WT2	月	
WT3	日	
WT4	時	24 時間制
WT5	分	
WT6	秒	

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-ProEX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6.2 PC3J、PC3JD、PC3JG、PC3JT

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考※ ¹
入力リレー	1X0000 - 1X07FF	1X000W - 1X07FW	 L/H	※2 ※3
	2X0000 - 2X07FF	2X000W - 2X07FW		
	3X0000 - 3X07FF	3X000W - 3X07FW		
出力リレー	1Y0000 - 1Y07FF	1Y000W - 1Y07FW		※2 ※3
	2Y0000 - 2Y07FF	2Y000W - 2Y07FW		
	3Y0000 - 3Y07FF	3Y000W - 3Y07FW		
内部リレー	1M0000 - 1M07FF	1M000W - 1M07FW		※2
	2M0000 - 2M07FF	2M000W - 2M07FW		
	3M0000 - 3M07FF	3M000W - 3M07FW		
キーブリレー	1K0000 - 1K02FF	1K000W - 1K02FW		※2
	2K0000 - 2K02FF	2K000W - 2K02FW		
	3K0000 - 3K02FF	3K000W - 3K02FW		
リンクリレー	1L0000 - 1L07FF	1L000W - 1L07FW		※2
	2L0000 - 2L07FF	2L000W - 2L07FW		
	3L0000 - 3L07FF	3L000W - 3L07FW		
特殊リレー	1V0000 - 1V00FF	1V000W - 1V00FW		※2
	2V0000 - 2V00FF	2V000W - 2V00FW		
	3V0000 - 3V00FF	3V000W - 3V00FW		
エッジ検出	1P0000 - 1P01FF	-----		
	2P0000 - 2P01FF	-----		
	3P0000 - 3P01FF	-----		
タイマ（接点）	1T0000 - 1T01FF	1T000W - 1T01FW		※2 ※3
	2T0000 - 2T01FF	2T000W - 2T01FW		
	3T0000 - 3T01FF	3T000W - 3T01FW		
カウンタ（接点）	1C0000 - 1C01FF	1C000W - 1C01FW		※2 ※3
	2C0000 - 2C01FF	2C000W - 2C01FW		
	3C0000 - 3C01FF	3C000W - 3C01FW		
現在値レジスタ	1N0000-0 - 1N01FF-F	1N0000 - 1N01FF		※4
	2N0000-0 - 2N01FF-F	2N0000 - 2N01FF		
	3N0000-0 - 3N01FF-F	3N0000 - 3N01FF		

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考※1
データレジスタ	1D0000-0 - 1D2FFF-F	1D0000 - 1D2FFF ※5	[L/H]	※4
	2D0000-0 - 2D2FFF-F	2D0000 - 2D2FFF ※5		
	3D0000-0 - 3D2FFF-F	3D0000 - 3D2FFF ※5		
リンクレジスタ	1R0000-0 - 1R07FF-F	1R0000 - 1R07FF		※4
	2R0000-0 - 2R07FF-F	2R0000 - 2R07FF		
	3R0000-0 - 3R07FF-F	3R0000 - 3R07FF		
特殊レジスタ	1S0000-0 - 1S03FF-F	1S0000 - 1S03FF		※4
	2S0000-0 - 2S03FF-F	2S0000 - 2S03FF		
	3S0000-0 - 3S03FF-F	3S0000 - 3S03FF		
ファイルレジスタ	B0000-0 - B1FFF-F	B0000 - B1FFF		※4
拡張入力	EX0000 - EX07FF	EX000W - EX07FW		※2 ※3
拡張出力	EY0000 - EY07FF	EY000W - EY07FW		※2 ※3
拡張内部リレー	EM0000 - EM1FFF	EM000W - EM1FFW		※2
拡張特殊リレー	EV0000 - EV0FFF	EV000W - EV0FFW		※2
拡張キープリレー	EK0000 - EK0FFF	EK000W - EK0FFW		※2
拡張エッジ検出	EP0000 - EP0FFF	-----		
拡張タイマ	ET0000 - ET07FF	ET000W - ET07FW		※2 ※3
拡張カウンタ	EC0000 - EC07FF	EC000W - EC07FW		※2 ※3
拡張リンクリレー	EL0000 - EL1FFF	EL000W - EL1FFW		※2
拡張2入力	GX0000 - GXFFFF	GX000W - GXFFFF		※2 ※3 ※6
拡張2出力	GY0000 - GYFFFF	GY000W - GYFFFF		※2 ※3 ※6
拡張2内部リレー	GM0000 - GMFFFF	GM000W - GMFFFF		※2 ※6
拡張データレジスタ	U0000-0 - U7FFF-F	U0000 - U7FFF		※4
拡張設定値レジスタ	H0000-0 - H07FF-F	H0000 - H07FF		※4
拡張特殊レジスタ	ES0000-0 - ES07FF-F	ES0000 - ES07FF		※4
拡張現在値レジスタ	EN0000-0 - EN07FF-F	EN0000 - EN07FF		※4
時計時刻レジスタ	-----	WT0 - WT6		※7 ※8
拡張バッファレジスタ	EB00000-0 - EB1FFFF-F	EB00000 - EB1FFFF		※4

※1 接続機器最大接続台数は16台です。

※2 ビットデバイスの Word 表記はワードアドレスの最後に “W” を追記します。
例) M デバイスでアドレスが 0 の場合、“M0000W” とします。

※3 X と Y (EX,EY,GX,GY)、T と C (ET,EC) は重複してアドレスを付けることができません。
(X000/Y000,EX000/EY000,T000/C000,ET000/EC000 とアドレスを付けることは誤りです。)

- ※ 4 ワードデバイスの Bit 表記はワードアドレスの次に “-” を表記し、次にビット位置を表記します。
例) D デバイスでアドレスが 0、ビットが 5 の場合、“D0000-5” とします。
- ※ 5 PC3J と PC3JT の最大アドレス値は 2FFF、PC3JD と PC3JG の最大アドレス値は 0FFF までです。
- ※ 6 PC3JG の CPU ユニット上のリンク I/F でのみサポートされています。
- ※ 7 書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の全ての時計時刻レジスタを読み込み、読込んだ時計時刻レジスタの該当するワードアドレスを変更し、接続機器へ戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- ※ 8 アドレスの仕様は以下の通りです。

アドレス	内容	備考
WT0	曜日	0 : 日曜, 1: 月曜, 2: 火曜, 3: 水曜, 4: 木曜, 5: 金曜, 6: 土曜
WT1	年	西暦下 2 桁
WT2	月	
WT3	日	
WT4	時	24 時間制
WT5	分	
WT6	秒	

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-ProEX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6.3 PC10G シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
入力	1X000 - 1X7FF	1X00W - 1X7FW		※ 1 ※ 2
	2X000 - 2X7FF	2X00W - 2X7FW		
	3X000 - 3X7FF	3X00W - 3X7FW		
出力	1Y000 - 1Y7FF	1Y00W - 1Y7FW		※ 1 ※ 2
	2Y000 - 2Y7FF	2Y00W - 2Y7FW		
	3Y000 - 3Y7FF	3Y00W - 3Y7FW		
内部リレー	1M000 - 1M7FF	1M00W - 1M7FW		※ 1
	2M000 - 2M7FF	2M00W - 2M7FW		
	3M000 - 3M7FF	3M00W - 3M7FW		
キーブリレー	1K000 - 1K2FF	1K00W - 1K2FW		※ 1
	2K000 - 2K2FF	2K00W - 2K2FW		
	3K000 - 3K2FF	3K00W - 3K2FW		
リンクリレー	1L000 - 1L7FF	1L00W - 1L7FW		※ 1
	2L000 - 2L7FF	2L00W - 2L7FW		
	3L000 - 3L7FF	3L00W - 3L7FW		
特殊リレー	1V00 - 1VFF	1V0W - 1VFW		※ 1
	2V00 - 2VFF	2V0W - 2VFW		
	3V00 - 3VFF	3V0W - 3VFW		
エッジ検出	1P0000 - 1P01FF	-----		
	2P0000 - 2P01FF	-----		
	3P0000 - 3P01FF	-----		
タイマ（接点）	1T000 - 1T1FF	1T00W - 1T1FW		※ 1 ※ 2
	2T000 - 2T1FF	2T00W - 2T1FW		
	3T000 - 3T1FF	3T00W - 3T1FW		
カウンタ（接点）	1C000 - 1C1FF	1C00W - 1C1FW		※ 1 ※ 2
	2C000 - 2C1FF	2C00W - 2C1FW		
	3C000 - 3C1FF	3C00W - 3C1FW		
現在値レジスタ	1N000-0 - 1N1FF-F	1N000 - 1N1FF		※ 3
	2N000-0 - 2N1FF-F	2N000 - 2N1FF		
	3N000-0 - 3N1FF-F	3N000 - 3N1FF		

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32bits	備考
データレジスタ	1D0000-0 - 1D2FFF-F	1D0000 - 1D2FFF	L/H	※ 3
	2D0000-0 - 2D2FFF-F	2D0000 - 2D2FFF		
	3D0000-0 - 3D2FFF-F	3D0000 - 3D2FFF		
リンクレジスタ	1R000-0 - 1R7FF-F	1R000 - 1R7FF		※ 3
	2R000-0 - 2R7FF-F	2R000 - 2R7FF		
	3R000-0 - 3R7FF-F	3R000 - 3R7FF		
特殊レジスタ	1S000-0 - 1S3FF-F	1S000 - 1S3FF		※ 3
	2S000-0 - 2S3FF-F	2S000 - 2S3FF		
	3S000-0 - 3S3FF-F	3S000 - 3S3FF		
ファイルレジスタ	B0000-0 - B1FFF-F	B0000 - B1FFF		※ 3
拡張入力	EX000 - EX7FF	EX00W - EX7FW		※ 1 ※ 2
拡張出力	EY000 - EY7FF	EY00W - EY7FW		※ 1 ※ 2
拡張内部リレー	EM0000 - EM1FFF	EM000W - EM1FFW		※ 1
拡張特殊リレー	EV000 - EVFFF	EV00W - EVFFW		※ 1
拡張キープリレー	EK000 - EKFFF	EK00W - EKFFW		※ 1
拡張エッジ検出	EP0000 - EP0FFF	-----		
拡張タイマ	ET000 - ET7FF	ET00W - ET7FW		※ 1 ※ 2
拡張カウンタ	EC000 - EC7FF	EC00W - EC7FW		※ 1 ※ 2
拡張リンクリレー	EL0000 - EL1FFF	EL000W - EL1FFW		※ 1
拡張 2 入力	GX0000 - GXFFFF	GX000W - GXFFFW		※ 1 ※ 2 ※ 4
拡張 2 出力	GY0000 - GYFFFF	GY000W - GYFFFW		※ 1 ※ 2 ※ 4
拡張 2 内部リレー	GM0000 - GMFFFF	GM000W - GMFFFW		※ 1 ※ 4
拡張データレジスタ	U00000-0 - U1FFFF-F	U00000 - U1FFFF		※ 4
拡張設定値レジスタ	H000-0 - H7FF-F	H000 - H7FF		※ 4
拡張特殊レジスタ	ES000-0 - ES7FF-F	ES000 - ES7FF		※ 4
拡張現在値レジスタ	EN000-0 - EN7FF-F	EN000 - EN7FF		※ 4
時計時刻レジスタ	-----	WT0 - WT6		※ 5 ※ 6
拡張バッファレジスタ	EB00000-0 - EB3FFFF-F	EB00000 - EB3FFFF		※ 3
拡張フラッシュレジスタ	FR000000-0 - FR1FFFFFF-F	FR000000 - FR1FFFFFF		※ 3 ※ 7

※ 1 ビットデバイスの Word 表記はワードアドレスの最後に “W” を追記します。

例) M デバイスでアドレスが 0 の場合、“M0000W” とします。

※ 2 X と Y (EX,EY,GX,GY)、T と C (ET,EC) は重複してアドレスを付けることができません。

(X000/Y000,EX000/EY000,T000/C000,ET000/EC000 とアドレスを付けることは誤りです。)

- ※3 ワードデバイスの Bit 表記はワードアドレスの次に“-”を表記し、次にビット位置を表記します。
例) D デバイスでアドレスが 0、ビットが 5 の場合、“D0000-5”とします。
- ※4 PC10G の CPU ユニット上のリンク I/F でのみサポートされています。
- ※5 書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の全ての時計時刻レジスタを読み込み、読込んだ時計時刻レジスタの該当するワードアドレスを変更し、接続機器へ戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- ※6 アドレスの仕様は以下の通りです。

アドレス	内容	備考
WT0	曜日	0 : 日曜, 1: 月曜, 2: 火曜, 3: 水曜, 4: 木曜, 5: 金曜, 6: 土曜
WT1	年	西暦下 2 桁
WT2	月	
WT3	日	
WT4	時	24 時間制
WT5	分	
WT6	秒	

- ※7 拡張フラッシュレジスタの読出しと書き込みができます。フラッシュメモリへ値を書込むことはできません。フラッシュメモリへの書き込みはラダーソフトを使用してください。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-ProEX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。



「表記のルール」

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

7.1 PC2 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0080	ワードアドレス
出力リレー	Y	0081	ワードアドレス
内部リレー	M	0082	ワードアドレス
キーブリレー	K	0084	ワードアドレス
リンクリレー	L	0088	ワードアドレス
特殊リレー	V	0083	ワードアドレス
タイマ（接点）	T	0086	ワードアドレス
カウンタ（接点）	C	0087	ワードアドレス
特殊レジスタ	S	0001	ワードアドレス
現在値レジスタ	N	0003	ワードアドレス
データレジスタ	D	0000	ワードアドレス
リンクレジスタ	R	0002	ワードアドレス
ファイルレジスタ	B	0004	ワードアドレス
時計時刻レジスタ	WT	0007	ワードアドレス

7.2 PC3J、PC3JD、PC3JG、PC3JT

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	1X	0080	ワードアドレス
	2X	0180	ワードアドレス
	3X	0280	ワードアドレス
出力リレー	1Y	0081	ワードアドレス
	2Y	0181	ワードアドレス
	3Y	0281	ワードアドレス
内部リレー	1M	0082	ワードアドレス
	2M	0182	ワードアドレス
	3M	0282	ワードアドレス
キープリレー	1K	0084	ワードアドレス
	2K	0184	ワードアドレス
	3K	0284	ワードアドレス
リンクリレー	1L	0088	ワードアドレス
	2L	0188	ワードアドレス
	3L	0288	ワードアドレス
特殊リレー	1V	0083	ワードアドレス
	2V	0183	ワードアドレス
	3V	0283	ワードアドレス
タイマ（接点）	1T	0086	ワードアドレス
	2T	0186	ワードアドレス
	3T	0286	ワードアドレス
カウンタ（接点）	1C	0087	ワードアドレス
	2C	0187	ワードアドレス
	3C	0287	ワードアドレス
特殊レジスタ	1S	0001	ワードアドレス
	2S	0101	ワードアドレス
	3S	0201	ワードアドレス
現在値レジスタ	1N	0003	ワードアドレス
	2N	0103	ワードアドレス
	3N	0203	ワードアドレス

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
データレジスタ	1D	0000	ワードアドレス
	2D	0100	ワードアドレス
	3D	0200	ワードアドレス
リンクレジスタ	1R	0002	ワードアドレス
	2R	0102	ワードアドレス
	3R	0202	ワードアドレス
ファイルレジスタ	B	0004	ワードアドレス
拡張設定値レジスタ	H	0006	ワードアドレス
拡張データレジスタ	U	0005	ワードアドレス
拡張入力	EX	0090	ワードアドレス
拡張出力	EY	0091	ワードアドレス
拡張内部リレー	EM	0092	ワードアドレス
拡張キープリレー	EK	0094	ワードアドレス
拡張リンクリレー	EL	0098	ワードアドレス
拡張特殊リレー	EV	0093	ワードアドレス
拡張タイマ（接点）	ET	0096	ワードアドレス
拡張カウンタ（接点）	EC	0097	ワードアドレス
拡張特殊レジスタ	ES	0011	ワードアドレス
拡張現在値レジスタ	EN	0013	ワードアドレス
拡張 2 入力	GX	00A0	ワードアドレス
拡張 2 出力	GY	00A1	ワードアドレス
拡張 2 内部リレー	GM	00A2	ワードアドレス
時計時刻レジスタ	WT	0007	ワードアドレス
拡張バッファレジスタ	EB	0014	ワードアドレス

7.3 PC10G シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力	1X	0080	ワードアドレス
	2X	0180	ワードアドレス
	3X	0280	ワードアドレス
出力	1Y	0081	ワードアドレス
	2Y	0181	ワードアドレス
	3Y	0281	ワードアドレス
内部リレー	1M	0082	ワードアドレス
	2M	0182	ワードアドレス
	3M	0282	ワードアドレス
キープリレー	1K	0084	ワードアドレス
	2K	0184	ワードアドレス
	3K	0284	ワードアドレス
リンクリレー	1L	0088	ワードアドレス
	2L	0188	ワードアドレス
	3L	0288	ワードアドレス
特殊リレー	1V	0083	ワードアドレス
	2V	0183	ワードアドレス
	3V	0283	ワードアドレス
タイマ（接点）	1T	0086	ワードアドレス
	2T	0186	ワードアドレス
	3T	0286	ワードアドレス
カウンタ（接点）	1C	0087	ワードアドレス
	2C	0187	ワードアドレス
	3C	0287	ワードアドレス
特殊レジスタ	1S	0001	ワードアドレス
	2S	0101	ワードアドレス
	3S	0201	ワードアドレス
現在値レジスタ	1N	0003	ワードアドレス
	2N	0103	ワードアドレス
	3N	0203	ワードアドレス

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
データレジスタ	1D	0000	ワードアドレス
	2D	0100	ワードアドレス
	3D	0200	ワードアドレス
リンクレジスタ	1R	0002	ワードアドレス
	2R	0102	ワードアドレス
	3R	0202	ワードアドレス
ファイルレジスタ	B	0004	ワードアドレス
拡張設定値レジスタ	H	0006	ワードアドレス
拡張データレジスタ	U	0005	ワードアドレス
拡張入力	EX	0090	ワードアドレス
拡張出力	EY	0091	ワードアドレス
拡張内部リレー	EM	0092	ワードアドレス
拡張キープリレー	EK	0094	ワードアドレス
拡張リンクリレー	EL	0098	ワードアドレス
拡張特殊リレー	EV	0093	ワードアドレス
拡張タイマ（接点）	ET	0096	ワードアドレス
拡張カウンタ（接点）	EC	0097	ワードアドレス
拡張特殊レジスタ	ES	0011	ワードアドレス
拡張現在値レジスタ	EN	0013	ワードアドレス
拡張 2 入力	GX	00A0	ワードアドレス
拡張 2 出力	GY	00A1	ワードアドレス
拡張 2 内部リレー	GM	00A2	ワードアドレス
時計時刻レジスタ	WT	0007	ワードアドレス
拡張バッファレジスタ	EB	0014	ワードアドレス
拡張フラッシュレジスタ	FR	0018	ワードアドレス

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号：機器名：エラーメッセージ（エラー発生箇所）」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]）
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 MEMO - IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 - デバイスアドレスは「アドレス：デバイスアドレス」のように表示されます。 - 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました（受信エラーコード：2[02H]）」

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。

■ 接続機器特有のエラーメッセージ

エラー番号	エラーメッセージ	内容
RHxx128	(接続機器名): 書き込みモード設定に失敗しました。	接続の確認を行ってください。